

杉 名 藥 師 遺 跡

-分譲住宅造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-

2006

安中市埋蔵文化財発掘調査団

序

安中市は群馬県の西南部に位置し、碓氷川の流れに沿って存在する緑豊かな田園都市です。杉名薬師遺跡は原市地区の北、九十九川を見下ろす台地の上にあります。原市地区は市内でも宅地化が進む緑豊かな田園地帯ですが、周辺には縄文時代から中世に至るまでの多数の遺跡が発見され、太古より人々の営みがあった地域として知られています。

今回の発掘調査は民間開発による分譲住宅のための造成工事に伴うものであり、縄文時代から中世までの集落跡が発見されました。なかでも、弥生時代では市内でも少ない中期前半の遺物や遺跡の北に存在する高橋遺跡と同じ後期の集落跡が発見されました。また、古墳時代ではほとんどの住居が焼失しており、炭化した柱や垂木がそのままの状態で発見された住居もあり、住居の屋根の構造を知る上で重要な手掛かりが得られました。

こうした発見された歴史の遺産は、私たちの祖先の歩んできた姿を映すものであり、郷土の歴史として将来へと残していく必要があります。そのためにも今回の成果が、郷土の歴史を学習するため活用されることを願う次第であります。

最後に、発掘調査に協力していただきました関東建設工業株式会社様をはじめ、発掘調査に従事していただいた方々、調査に際して有益なご助言、ご指導をいただいた多くの方々には厚く御礼申し上げたいと存じます。

平成18年2月

安中市埋蔵文化財発掘調査団
団長 高橋重治

例　　言

1. 本書は関東建設工業株式会社が実施した分譲住宅造成工事に伴う杉名薬師遺跡(略称C-4)の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査所在地は安中市原市字杉名薬師4081-1外7筆である。
3. 確認調査及び本調査は、安中市教育委員会が委託を受け実施し、遺物整理は安中市教育委員会が組織する安中市埋蔵文化財発掘調査団(団長 安中市教育長)が委託を受けて実施した。なお、調査経費については全額原作者負担による。
4. 調査期間
　　確認調査 昭和63年8月17日～昭和63年9月1日
　　本調査 昭和63年9月19日～昭和63年11月16日
　　整理期間　調査終了後、平成18年2月28日までの間、断続的に実施した。
5. 確認調査及び本調査は大工原農(当時安中市教育委員会社会教育課社会教育係主事)、千田茂雄(当時調査員、同主事補、現安中市教育委員会文化振興課文化財係主査)が担当した。遺物整理は大工原、千田、井上慎也(文化振興課文化財係主事)が担当した。なお、図版作成及び遺物実測図等の作業の一部について弥生時代は若狭 薦氏、古墳時代は外山政子氏の協力を得た。
6. 本書の編集は井上が行った。本文は『安中市史』第4巻で若狭氏及び外山氏が執筆した内容を井上が加筆訂正し、再編集した。文責は井上有る。遺物整理及び実測図、遺構図作成等の一部は市史編さん事業で実施し、大工原、若狭氏、外山氏、金井京子、古立真理子、氏家敏子が従事した。報告書作成では井上が市史の図版等を再編集し、遺構図の作成と実測図の追加を行った。遺物観察表は実測図の所見を元に井上が作成した。観察表については紙面の都合上、本編には掲載せず、データ化し添付資料とした。なお、報告にあたっては、整理期間が長期に渡ったため、本文及び図版等に発掘調査当時の記録及び所見とは異なる部分もある。
7. 遺構の写真撮影は大工原、千田が行った。航空写真撮影は(有)青高館に委託した。遺物の写真撮影は、弥生後期土器・土師器については写真家小川忠博氏、その他の遺物を井上が行った。
8. 発掘調査の記録、出土遺物等は安中市教育委員会が保管している。
9. 発掘調査及び遺物整理の期間中、多くの方々にご指導、ご協力をいただいた。また、発掘調査及び遺物整理には多数の地元有志の方々に参加いただいた。皆様には心から感謝申し上げます。

目 次

| | | |
|------------------|---------------|----|
| 序 | V 遺構と遺物 | 9 |
| 例言 | 1 遺跡の概要 | 9 |
| 凡例 | 2 縄文時代の遺物 | 10 |
| I 調査の経過 | 3 弥生時代の遺構と遺物 | 12 |
| II 調査の方法 | 4 古墳時代の遺構と遺物 | 35 |
| III 遺跡の地理的・歴史的環境 | 5 古代～中世の遺構と遺物 | 55 |
| IV 層序 | VI 成果と問題点 | 57 |
| | 写真図版 | |
| | 遺物観察表(添付資料) | |

凡 例

1. 遺構の実測図は1/80を基本としたが、遺構の大きさにより、1/40としたものもある。

2. 遺構図のトーン(網目)は砂跡及び焼土跡を示す。

3. 遺構図中の北マークは磁北である。

4. 遺構実測図の縮尺は次のとおりである。

土器(縄文・弥生・古墳)・埴輪: 1/4 石器: 1/2 (小形)・1/4 (大型)

土製品・石製品・砥石: 1/2・1/4 ガラス玉 1/1

弥生土器のトーンは赤彩を示す。●は須恵器を示す。

5. 土層説明中の記号、略称は次のとおりである。

土層名称及び量の基準: 新版標準色帖による。

色調 < : より明るい方向を示す(暗<明)

しまり、粘性 ○: あり ○: ややあり △: あまりない ×: なし

混入物の量 ○: 大量(30~50%) ○: 多量(15~25%) △: 少量(5~10%)

車: 若干(1~3%)

混入物 RP: ローム粒子(溶け込んだ状態) RB: ロームブロック(固まりの状態)

YP: 板鼻黄色軽石

6. ピットの深さ ○ 0~19cm ● 20~39cm ■ 40~59cm ▲ 60cm以上

7. 遺構の分割には、各遺構図版に示した。なお、平面図にあるドット番号は、遺物番号を示す。

8. 石器の分類は「中野谷松原道路」1999等にある安中市の分類基準に従った。

I 調査の経過

1 調査に至る経過

昭和63年6月、農地転用の事前協議の段階で、該当地域の照会が市都市施設課よりあった。そこで、市教育委員会では現地踏査するとともに、遺跡台帳等を確認したところ、該当場所には遺物が散布しており、遺跡の範囲に含まれることが明らかとなった。また、隣接する部分には古墳が存在していることも明らかとなった。そこで、同年6月29日にその旨を意見書をして提出した。その後、同年7月20日に安中市地域開発対策委員会より、再度該当地域に対する文化財に関する照会があった。そこで、同年7月26日に再び意見書を提出するとともに、開発業者と直接協議を行い、工事の概要についての説明を求めた。しかし、開発業者としては、開発の必要性から計画変更は困難であることから、まず、試掘調査を実施し、その結果により計画等を考慮することになり、遺跡が影響を被る部分について発掘調査を実施し、記録保存の措置を講ずることになった。

2 調査の経過

確認調査は昭和63年8月17日から同年9月1日までの間実施した。確認調査は事業区域内に2m幅のトレンチを南北方向に7本設定し、遺構の有無について確認作業を実施した。調査の結果、事業地の北側部分で弥生時代と古墳時代の住居址が数軒、古墳1基が存在することが判明した。遺構確認面までの深さは表土より80cmから200cmであったため、住宅部分については工事による遺跡への影響が低いと判断し、遺構が確認された部分を中心とした道路部分及び土取り等で地面を掘削する部分について本調査を実施した。なお、古墳については協議の上、調査対象外とし、現状保存の措置を講じた。

本調査は昭和63年9月19日から同年11月16日までの間実施した。本調査では弥生時代住居址7軒と古墳時代住居址9軒と古代以降の溝、土坑、地下式土坑を調査した。なお、H-6号住居址とD-6号土坑は欠番とした。遺物整理及び報告書作成は発掘調査終了後より平成18年2月28日まで断続的に実施した。遺物整理は遺物の洗浄・注記→接合・復元→実測・拓本・トレース→写真撮影の手順で行い、並行して遺構図の修正・素図の作成、トレース及び各種図版作成、写真整理を行った。なお、遺物整理(遺構トレース、遺物実測図、遺物観察表)及び図版作成の一部については市史編さん事業(平成12~13年度)において実施した。

(井上慎也)

II 調査の方法

調査区及びグリッドの設定は建物予定地を基準にして設定した。1グリッドは4m×4mで北西隅を基点とし、北から南へアルファベットでA、B、C…、西から東へ算用数字で1、2、3…と呼称することにした。なお、グリッドの国家座標への取付は行っていない。

発掘調査は、まず、バックホーにより表土を掘削し、その後、人力により遺構、遺物の確認作業を実施した。確認された遺構については順次精査を行った。遺構の平面図及び遺物分布図の一部は平板測量を行った。土層断面図は從来の測量方法で行った。なお、一部、住居址の遺物については、住居址長軸方向及びそれに直交する方向に3本ずつ等間隔の線を引き、16分割に分割して各区画を層位毎に取り上げた。検出された遺構の土層断面及び全景の写真撮影を行い、遺跡の全景を気球により撮影した。

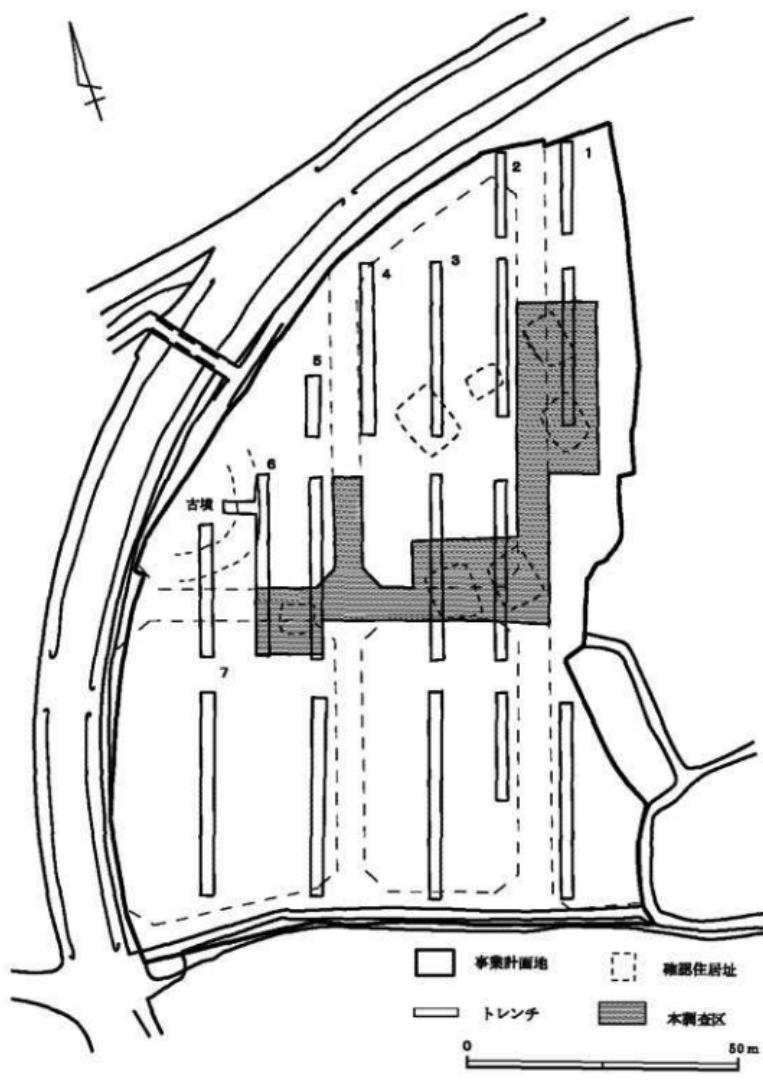
遺物整理では、各種遺構の平面図、土層断面図、遺構断面図、観察表、必要に応じて遺物分布図(16分割・原位置の2種類)、壁面の小穴断面図を作成した。なお、本報告では遺物の量的及び分類情報は割愛し、各遺構で特徴ある遺物のみを図示した。各種遺物については実測図と観察表を作成した。各種トレース及び図版編集の一部にはパソコン、スキャナー等のデジタル情報処理機器を利用して作業を行った(OS:Microsoft Windows XP主な使用ソフト:(株)ジャストシステム一太郎12・花子2004・三四郎9及びAdobe Illustrator9.0・Photoshop Elements)。

(井上慎也)

III 遺跡の地理的・歴史的環境

1 地理的環境

本遺跡は碓氷川と九十九川に挟まれた中位段丘面(原市・安中台地)に存在し、九十九川とその支流である八咫川の合流点に張り出した舌状台地の端部に位置する。遺跡地の標高は207～208mである。九十九川流域は広い範囲で河岸段丘が発達しており、川幅も広く流域には広い低地が存在する。現在もこの流域では水田耕作を中心とした土地利用がみられる。本遺跡が存在する段丘面は東西に細長い台地で九十九川と八咫川の間に小さな谷があり、段丘を南北に二分している。本遺跡の西には嶺・下原遺跡、八咫川を挟んだ南には櫻木畠遺跡が存在する。本遺跡の東には九十九川中流域の自然堤防上の舌状微高地に高橋遺跡が存在する。ここでは弥生時代以後の地滑りによる土石流災害が確認されている。



第1図 トレンチ位置・調査区設定図

2 歴史的環境

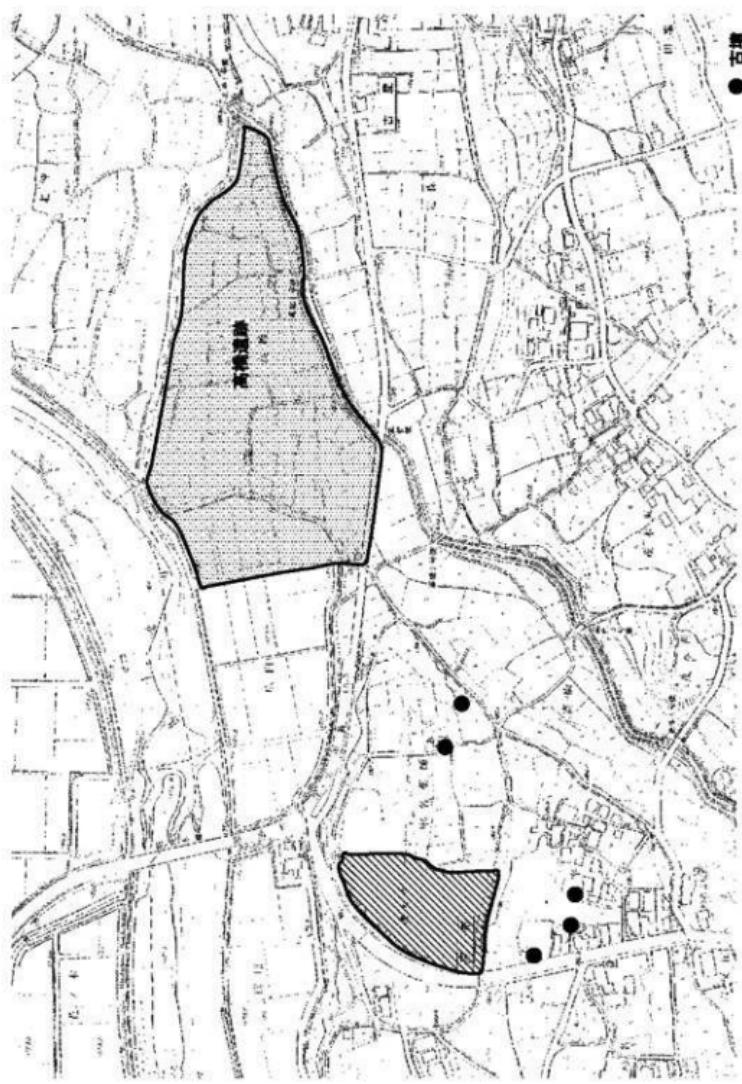
本遺跡は縄文時代草創期から中世に至るまでの複合遺跡であり、弥生後期と古墳後期を主体とした集落遺跡である。本遺跡と時期的に補完関係のある遺跡は、高橋遺跡、嶺・下原遺跡、榎木畠遺跡が周辺に存在する。ここでは杉名薬師遺跡とその周辺を中心に、発見された遺構・遺物について時代毎に概観する。

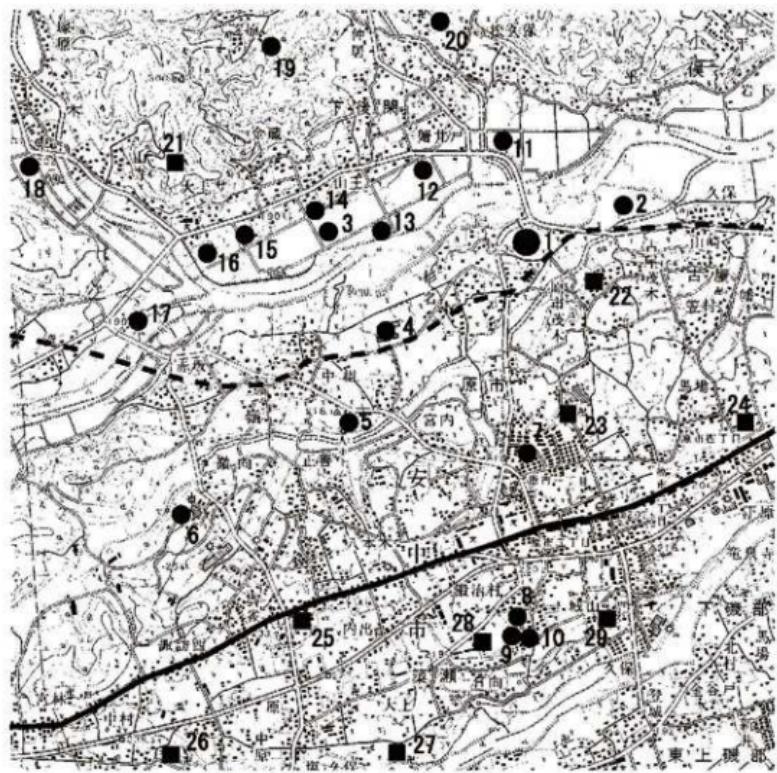
旧石器時代では榎木畠遺跡で遺物が採集されているが、遺構が確認できるのは縄文時代に至つてからである。縄文時代の遺跡は前期～後期の遺構・遺物は草創期から後期までが発見されている。草創期前半では有舌尖頭器が本遺跡と築瀬二子塚古墳で採集されている。集落遺跡では榎木畠遺跡(前・中期)、清水I・III・V遺跡(前期)、鍛冶ヶ嶺遺跡(前期)等で確認されている。また、配石遺構が八幡平II遺跡(中・後期)で確認されている。本遺跡でも前期を中心として中期、後期の遺物が出土している。弥生時代の遺跡は前期から後期までの遺物と後期の遺構を中心とした遺跡が発見されている。現段階では前期から中期後半までの遺構は発見されていないが、本遺跡では、発掘調査以前に道路側溝工事で中期後半の壺形土器が出土している。また、芝原遺跡でも同時期の土器が採集されている。後期から古墳時代初頭の集落遺跡は本遺跡、高橋遺跡で確認されており、当該期の遺跡群の存在が明らかとなった。古墳時代の遺跡では中期から後期の集落遺跡として、本遺跡と高橋遺跡、嶺・下原遺跡、榎木畠遺跡等で確認されている。古墳では九十九川沿岸に後閑3号墳、本遺跡の南側に当地域では数少ない前方後円墳である築瀬二子塚古墳等が存在する。本遺跡の周辺には後期を中心とした群集墳も存在し、集落遺跡との関係が認められる。律令期とされる古墳時代終末期では清水遺跡I・III・V・VI、榎木畠遺跡、嶺・下原遺跡において集落遺跡が確認されている。また、奈良時代～平安時代では鍛冶ヶ嶺遺跡で官衙的色彩の強い大形掘立柱建物址群(奈良)が発見され、集落遺跡として清水II・V・VI遺跡、榎木畠遺跡等、嶺・下原遺跡では平安時代まで続く鍛冶集落が確認されている。本遺跡周辺は古代東山道駿路の推定地であることから、これらの遺跡は東山道との関連性が窺えられる。九十九川沿岸では当時の生産基盤である浅間B軽石に覆われた水田跡が広範囲で確認されている。中世以降では清水II・V遺跡において、該期でも類例の少ない内耳鍋や鉢を焼成した窯跡とその工房跡が発見されている。中世城館址は安中忠政築城とされる榎下城(方形)等が存在する。清水VI遺跡では隣接する榎下城の外堀と接続する堀跡、城外で建物跡、地下式土坑等が確認されている。本遺跡でも地下式土坑が確認されている。近世の原市地区には台地を東西に横断する安中宿と松井田宿を結ぶ中山道が通過する。

(井上慎也)

● 古墳

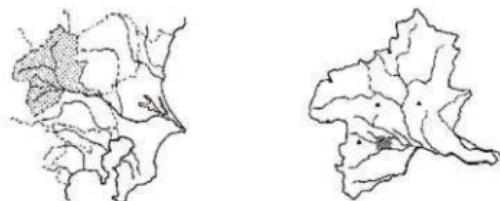
第2図 杉名墓跡遺跡・高塚遺跡位置図





— 推定東山道
— 推定東山道・中山道（近世）

0 1km



第3図 周辺遺跡分布図

| 遺跡名 | 組 | 縦文 | | | | 弥生 | | | 古墳 | | | 奈良 | | | 平安 | | | 中世 | | | 備考 | | |
|------------|---|----|---|---|---|----|---|---|----|---|---|----|---|---|----|----|----|----|----|---|----|-----------|-------------|
| | | 草 | 早 | 前 | 中 | 後 | 晚 | * | ○ | ○ | ○ | 前 | 中 | 後 | 終 | 奈良 | 平安 | 中世 | 近世 | | | | |
| 1 杉名裏御 | * | * | * | * | * | * | * | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | △ | △ | △ | △ | 本羅寺 | |
| 2 高橋 | * | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 集落・古墳群 | |
| 3 後閑3号墳 | * | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 円墳 | |
| 4 嶺・下原、岡II | * | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 鏡冶集落 | |
| 5 檜木塚 | * | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 集落 | |
| 6 銀治ヶ嶺 | * | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 集落・官衙遺構 | |
| 7 清水I～VI | * | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 集落・中世窯 | |
| 8 篠瀬二子塚古墳 | * | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 前方後円墳 | |
| 9 銀瀬首塚・古墳 | * | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 円墳・板碑群 | |
| 10 八幡平II | * | | | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | 配石、「篠瀬伊跡」 | |
| 11 広川 | * | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 平安水田(Aa-Bf) |
| 12 銀治屋 | * | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 平安水田(Aa-Bf) |
| 13 前原 | * | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 平安水田(Aa-Bf) |
| 14 山王前 | * | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 平安水田(Aa-Bf) |
| 15 堀路 | * | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 平安水田(Aa-Bf) |
| 16 町浦 | * | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 平安水田(Aa-Bf) |
| 17 深町 | * | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 平安水田(Aa-Bf) |
| 18 如来堂 | * | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 平安水田(Aa-Bf) |
| 19 芝原 | * | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 20 北野寺 | * | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 21 後閑坂 | * | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 22 浅木東 | * | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 23 梶下城 | * | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 24 原市東館 | * | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 25 内出勢 | * | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 26 菖沼城 | * | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 27 滝山城 | * | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 28 八幡平陣城 | * | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 29 原市城 | * | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

◎：大規模な遺跡（集落跡・古墳・城館址等） ○：中規模な遺跡（住居址・水田址等）
 △：小規模な遺跡（土坑・廣等） *：遺物が出土した遺跡

第1表 遺跡一覧

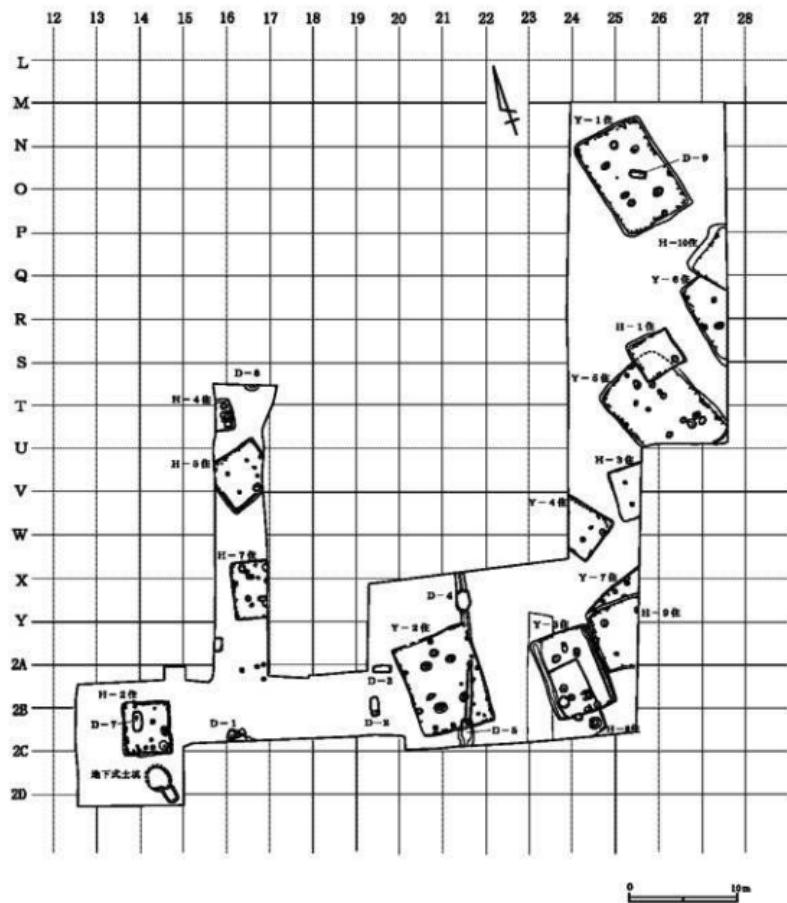
IV 層序

本遺跡での基本層序は第4図のとおりである。表土(I～III層)は黒色土で、表土中には一部で浅間A軽石層(1783年降灰)及び浅間B軽石層(1108年降灰)がみられた。遺構確認面はIII層下部で、IV層上面では掘り込みが顕著に認められた。

(井上慎也)



第4図 基本層序柱状図



第5図 杉名薬師遺跡全体図

V 遺構と遺物

1 遺跡の概要

杉名薬師遺跡は、弥生時代後期及び古墳時代の前期から後期までの集落跡を主体とする複合遺跡である。隣接する高橋遺跡と同一時期の集落が存在、展開する遺跡であり、両者は同じ遺跡群として捉えられる。

縄文時代ではトレンチから前期から後期までの遺物包含層を検出した。遺構は確認されなかつたが、分布状況及び出土量から、付近に遺構の存在が予想される。主な出土遺物は縄文時代前期中葉から後半、中期後半、後期初頭及び前半の土器群とこれらと共に伴すると思われる石器群が検出された。石器群は弥生時代に帰属するものも混在していると考えられるが、黒曜石製の石鎌類、打製石斧等が認められた。なお、遺構外から草創期の有舌尖頭器と石鎌が採集された。

弥生時代では前期後半から中期後半の遺物包含層、後期後半(樽式期)の大形住居址や焼失したものを含む竪穴住居址7軒を検出した。遺構の分布状況から、集落は調査区周辺に広がるものと予想される。また、遺物包含層及び住居址から各時期に帰属する可能性の高い石器群を検出した。主な器種は壺、甕、鉢、高坏等が組成する文様が櫛描文で構成される土器類で、内外面に赤色塗彩する土器も認められた。また、石器では打製石包丁と石鍬等も出土した。

古墳時代では、消失したものを含む竪穴住居址9軒(前期終末2軒、中期終末から後期初頭1軒、後期6軒)を検出した。焼失した住居址では、炭化した住居の梁や垂木等が検出された。炭化材の遺存状態が良好な住居址では、柱穴及び壁面の小ピット(横穴)と対応させて屋根の上部構造が復元可能である。弥生集落と同様、集落は調査区周辺に広がるものと予想される。在地の土器群の他に、龍目跡のある甕といった系譜が異なる土器も認められた。なお、確認調査では、調査区北西部(トレンチ7周辺)で古墳も確認(現状保存)され、埴輪片も少數採集された。

古代～中世では溝1条、土坑8基、地下式土坑1基を検出した。遺構の分布は散在していたが、これらの遺構群は同時期のものと推定され、平安時代以降と思われる。地下式土坑では内耳土器(土鍋)が出土しており、その年代からこれらの遺構群は中世の頃と考えられる。

(井上慎也)

2 縄文時代の遺物

(1) 概要

トレンチ及び住居址覆土中から石器及び縄文土器が検出されたが、遺構は確認されなかった。出土遺物の時期は前期前葉～後期前半である。

(2) 土器(第6図)

遺物包含層からは前期前葉～中葉(関山Ⅱ式、有尾・黒浜式)、前期後葉(諸磯a・b式)、中期後半(加曾利E 3式)、後期初頭(称名寺Ⅱ式)、後期前半(堀之内2式)の土器群が出土した。遺物量としては前期後葉の土器が多く、他の時期は少ない。

1～3は木の葉文と円形刺突文を特徴とする諸磯a式、4・5は爪形文を特徴とする諸磯b式古段階、7～9は浮線文を特徴とする諸磯b式中段階、6は地文がRL縄文である諸磯b式である。10～13は加曾利E 3式である。14は口縁部に隆帯をめぐらす称名寺Ⅱ式である。15・16は磨り消し縄文をもつ堀之内2式である。16の浅鉢を除き、全て深鉢である。

(井上慎也)

(3) 石器(第6図)

トレンチ及び弥生時代住居址覆土中から草創期に帰属する有舌尖頭器と石鎌が出土した。また、包含層及び住居址覆土中からは多数の石器が出土した。しかし、弥生時代の石器群との区別はできないため、ここでは出土石器の傾向を述べる。縄文時代の石器では石鎌、石錐、打製石斧、スクレイパー、凹石、磨石等が相当する。石材はA類石器には黒曜石、B類石器には頁岩類、C類石器には安山岩類が多用される。

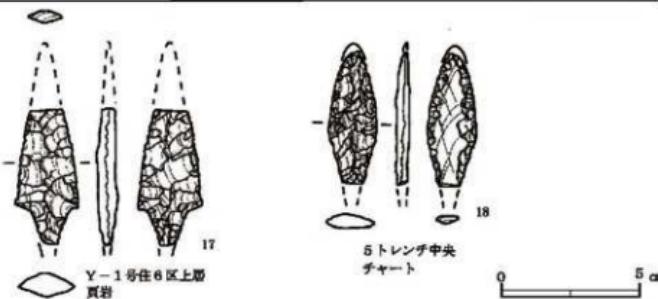
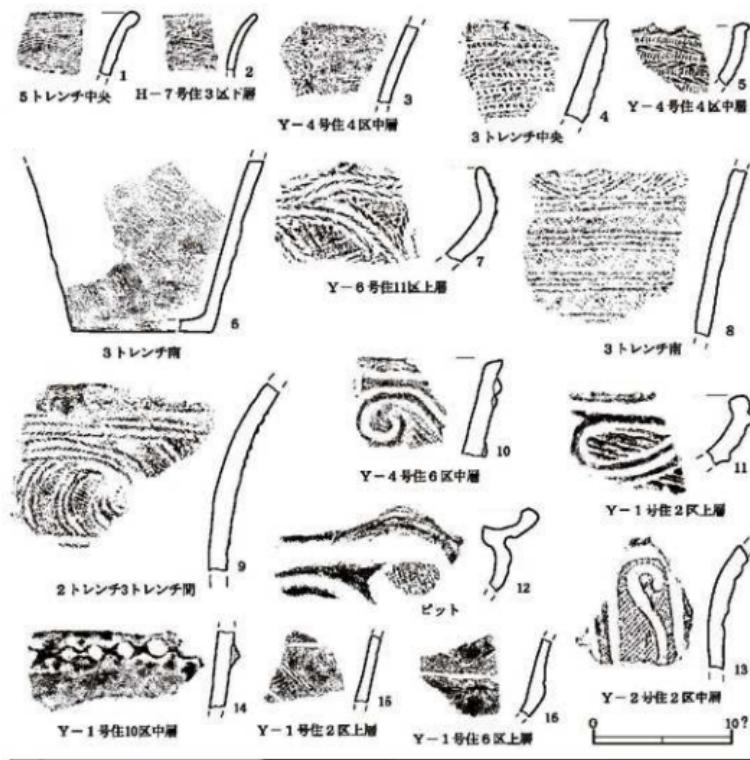
(井上慎也)

[石器各説]

有舌尖頭器 17は頁岩製で先端部と舌部を欠損する。比較的細身で、舌部は「返し」が鋭い。やや小形であることや、側縁部が鋸歯状でないことから、「小瀬が沢型」よりも新しい段階に相当するものと考えられる。

石鎌 18はチャート製の石鎌である。薄身の柳葉形を呈し、尖基鎌に分類される。この形態は草創期に特徴的である。基部は欠損するが、先端部は使用時の衝撃痕と推定される。出土状況からは有舌尖頭器と石鎌が同一時期のものである確証はないが、有舌尖頭器が比較的新しい段階のものなので、石鎌が共存しても矛盾はない。

(大工原 豊)



第6図 繩文時代の土器・石器実測図

3 弥生時代の遺構と遺物

(1) 概要

包含層では前期後半～中期後半の土器群を検出し、後期後半(櫛式期)の住居址7軒を調査した。なお、ここでは時期区分として、市史での区分及び若狭氏の編年(Ⅰ期：前期、Ⅱ期：前期終末～中期初頭、Ⅲ期：中期中葉、Ⅳ期：中期後半、Ⅴ期：後期3細分)に準じる。

(井上慎也)

(2) 中期の遺物

I期～IV期の土器群が確認されたが遺構は確認されなかつたが、遺物量から判断して、遺構は他時期の遺構によって破壊されたか、調査区外に存在するとみられる。

1. 土器(第7図・第8図)

壺形土器には弥生I・II期にさかのほりうるもののがみられる(1～12)。3・4・6等は弥生I期の有文壺である。しかし、主体はIV期のものである。素口縁で胴部を櫛描継走羽状文のみで飾る一群(1類:13～24)、受口部を櫛描山形文で飾るもの(2類:25、26、30等)、外反素口縁のもの(3類:28、29、33、34)、などの形式があり、胴部に廉状+横走羽状文をもつものなどのバリエーションがある。これらはいずれもIV期の壺である。やや時間幅がありそうだが、1類や、2類のうち受口屈曲の強いものなどは古相と思われる。特に1類は、栗林1式や池上式に顕著で、栗林2式期には衰退する形式である。そのため、当遺跡のIV期時は県内でも古い段階のIV期資料を含んでいるとみられよう。

ほかに鉢形土器を中心に、磨り消し繩文手法で幾何学文様を施すものがある(47～56)。多くはI・II期の壺形土器等と共に伴するものであろう。

壺型土器(58～79)は点数が少ないが主にIV期に帰属する。受口口縁と素口縁の双方がみられ、胴部文様帶も確認される。

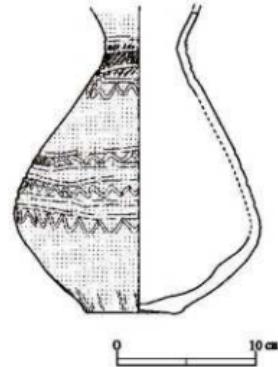
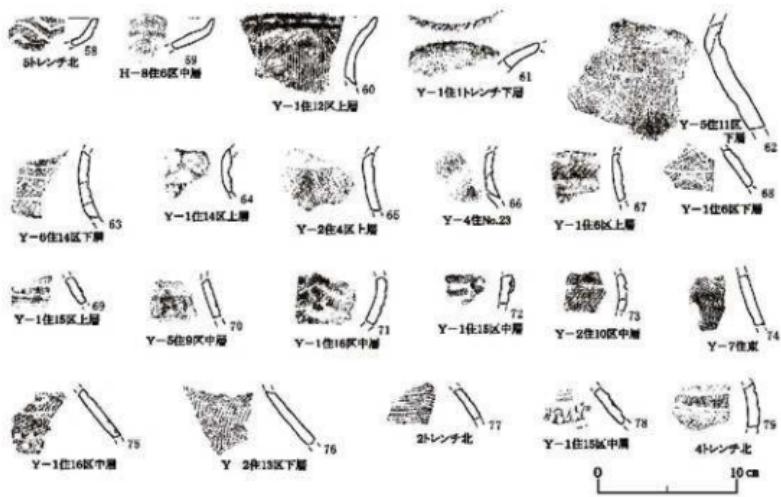
2. 参考資料(第8図)

外山和夫・津金沢吉茂・井上 太氏が報告した資料である。道路側溝工事による切断面に横倒しの状態で出土した。口縁を欠くが算盤玉形の胴部を呈する細頸の壺で、全面赤彩されている。頸部には沈線区画された繩文帯と回に添えられた山形文がある。胴部には沈線区画の間に山形文を入れ込んだ文様帶が三段に施されている。弥生IV期でも終末までは下らないものである。

(若狭 徹)



第7図 弥生時代中期の土器実測図(1)



参考資料 杉名塚出土の壺

第8図 弥生時代中期の土器実測図(2)

(3) 後期の遺構

[住居址の構造] (第9図～第14図・第2表・第3表)

弥生V3期の竪穴住居址7軒が検出された。いずれの住居址も主軸方向が南北を指向している。住居址の重複は認められないが、住居址同士が近接する例もあることから、集落の継続性が考えられる。住居址の構造は、平面長方形が多く、なかには一辺が10mを超える住居址2軒(Y-1号住居址・Y-5号住居址)、10mに迫る住居址1軒(Y-2号住居址)といった大形住居址も存在する。また、柱穴は床中央部に4本存在し、柱間には炉址が認められる。住居址の一辺(南側)には入口施設と考えられるピット(柱穴)もある。住居址の壁際には屋根及び壁を支える補助柱的なピットや多数の小ピットが認められた。さらに、壁面にも壁板材支えるために打ち込んだ杭跡と推定される多数の小ピット(横穴)が検出された。貯蔵穴と考えられる土坑もある住居址もあり、Y-2号住居址では貯蔵穴とされる土坑の中から完形の壺が正位に埋まった状態で出土した。炉址は地床炉(浅く掘り込んだ土坑)が主体で、土器を支えた枕石(橢円形の礫)も残されている住居址も認められた。炉址は1軒で複数あるものもあった。

[住居址の遺物出土状況]

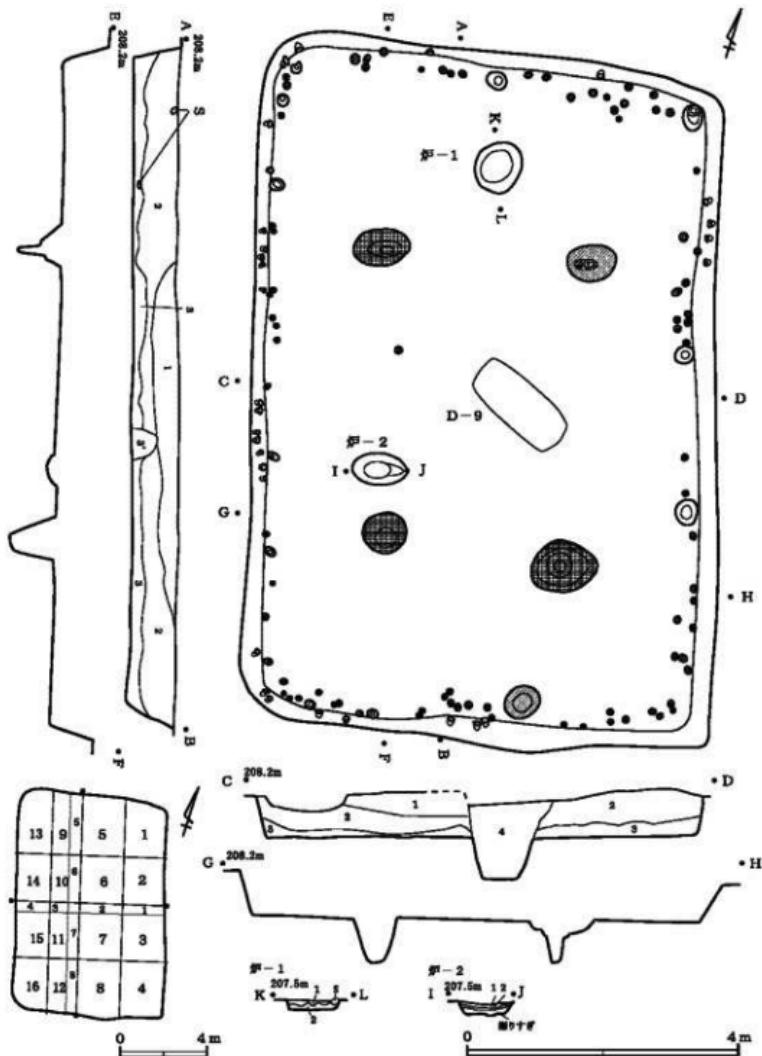
古墳時代の住居址と重複するものが多いことと住居址全体を調査できたものも少なかったため、遺物の出土状況は必ずしも良好とは言えない。しかし、各住居址からは他時期の土器(繩文土器・弥生中期土器)も混在していたが、住居址の時期と共に通する弥生時代後期(樽式期)の遺物が多数出土した。遺物の主体は土器片であったが、Y-3号住居址とY-5号住居址では完形に近い個体土器も出土した。また、後期の土器と共に伴すると思われる石器類及び礫(礫片)も出土した。遺物の出土状態から、多数の壺、甕、鉢、高杯等の土器片と混在遺物(他時期の土器及び石器)は「廃棄」に伴うものと考えられる。一方、遺物の中には完形土器等及び石器・礫の一部で床面から検出されたものも認められた。Y-3号住居址では床面柱脇で壺の口縁部を再利用した土器が置かれて出土した。こうした出土例は「廃棄」されたものと考えられる。地床炉の枕石も「廃棄」と考えられる。なお、土器以外の遺物として、Y-5号住居址からは土製鉢の破片、Y-2号住居址からガラス製の小玉が出土した。

(井上慎也)

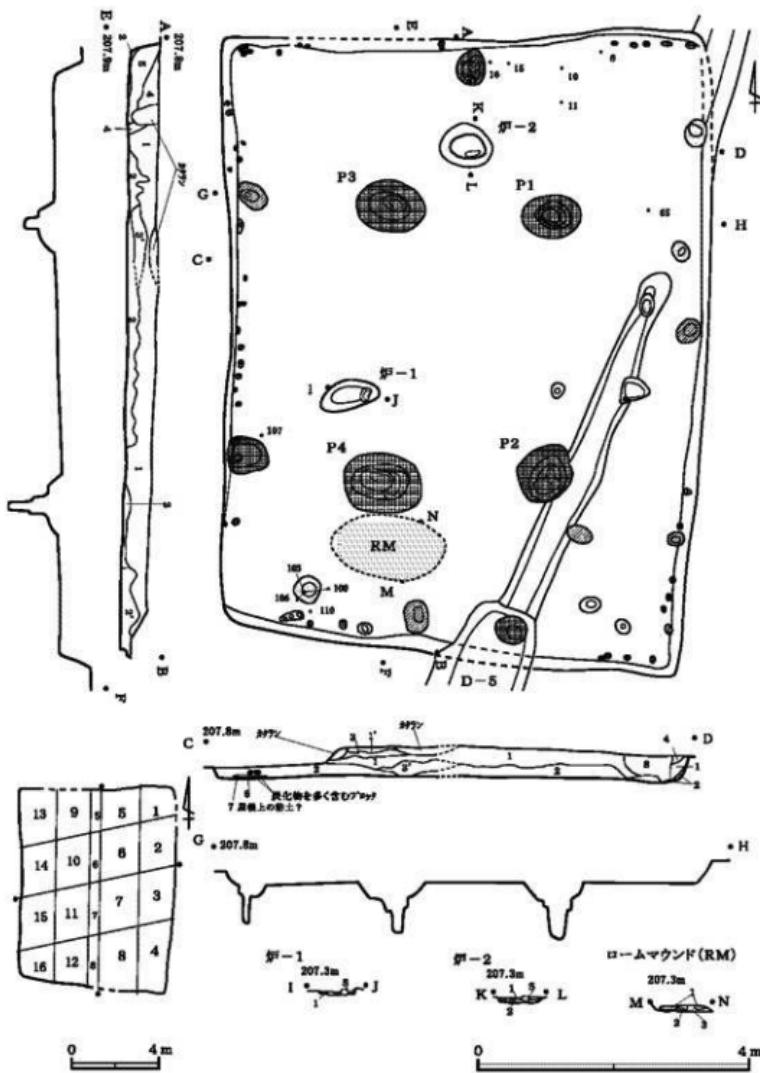
| 住居名 | 時期 | 平面形態 | 壁溝 | 柱穴(本) | 炉量形態 | 規 模 | | | 主軸方向 | 備 考 |
|-----|----|-------|----|------------------------------|---|--------|--------|------|---------|--|
| | | | | | | 長軸 | 短軸 | 深さ | | |
| Y-1 | V3 | 長方形 | 無 | 主4 | 柱間北：地床 炉、柱間西： 地床炉 | 10.08 | 2.68 | 0.64 | N-16°-W | 壁際・豎面に小ビット |
| Y-2 | V3 | 長方形 | 無 | 主4+補 (壁際) | 柱間北：地床 炉+枕石、柱 間西：地床炉 +枕石 | 9.02 | 7.04 | 0.44 | N-1°-W | 壁際・豎面に小ビット、入 口施設(南に2列のビット)、 ロームマウンド(RM)有。 焼失住居 |
| Y-3 | V3 | 長方形 | 両側 | 主4? | 柱間北：地床 炉+枕石 | 7.96 | 5.72 | 0.52 | N-7°-W | 壁際・豎面に小ビット、柱 脇に壇上部礎片(器台転用)、 南側の貯蔵穴から甕(1)出 土、遺物多數出土。 |
| Y-4 | V3 | 長方形 | 無 | 主(4) | 不明 | (5.20) | 4.36 | 0.36 | N-36°-W | 壁際に小ビット、南側に貯 蔵穴。 |
| Y-5 | V3 | 長方形 | 無 | 主4+補2 (主柱間) + 補(壁際) | 柱間北：地床 炉+枕石、柱 間東：地床炉 +枕石、地床 炉 | 10.82 | 7.48 | 0.52 | N-24°-W | 壁際・豎面に小ビット、抵 張住居、北側には棟持柱 (ビット)、南東側に貯蔵穴 (P3)、遺物多數出土。 |
| Y-6 | V3 | 長方形 | 無 | 主(1)+ 補(壁際) | 柱間西：地床 炉+枕石 | 8.44 | 5.02 | 0.56 | N-14°-W | 壁際に小ビット |
| Y-7 | V3 | (長方形) | 無 | 主不明+ 補(壁際) | 不明 | (6.61) | (2.00) | 0.24 | N-67°-E | 壁際に小ビット、この住居 址のみ主軸が北東方向 |

凡例：V3（弥生後期後半） 規模の()は推定値

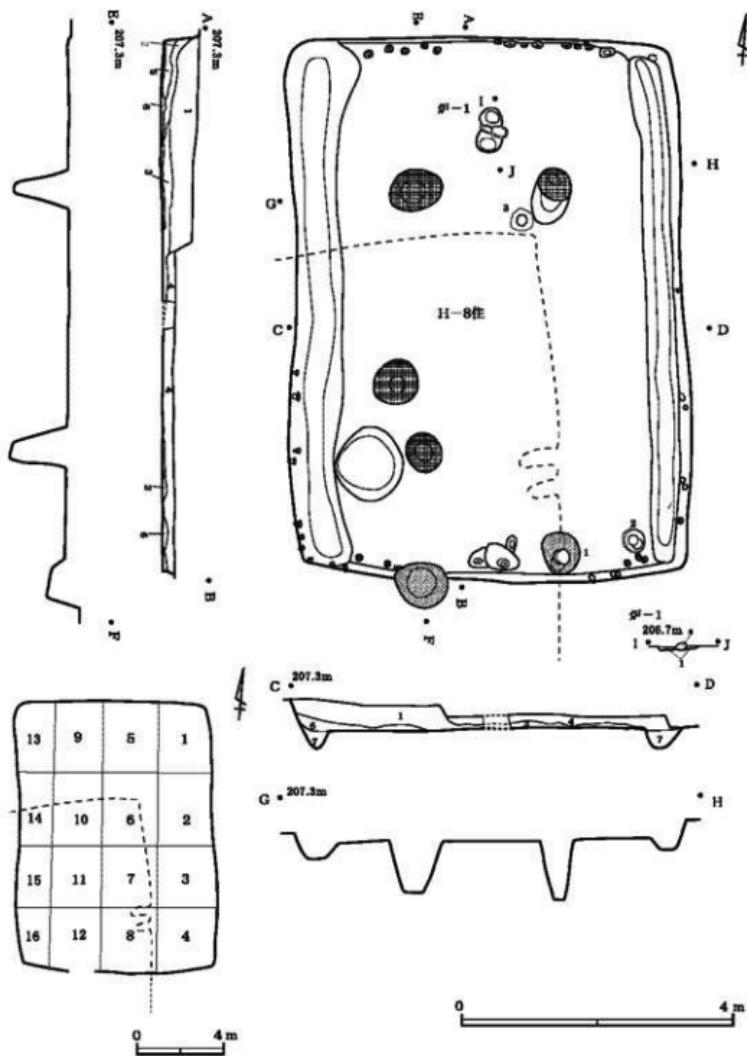
第2表 弥生時代住居址観察表



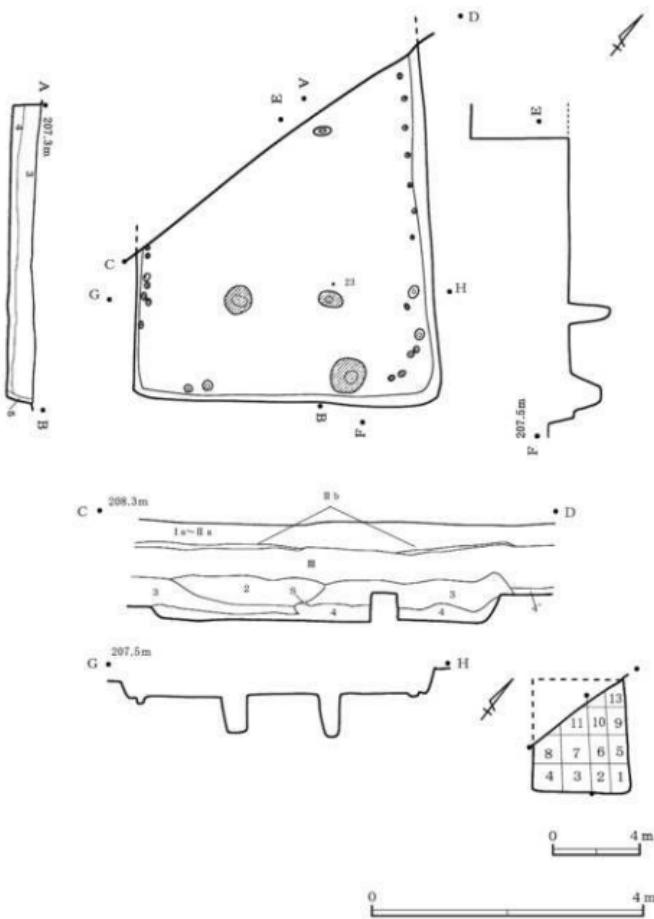
第9図 Y-1号住居址実測図



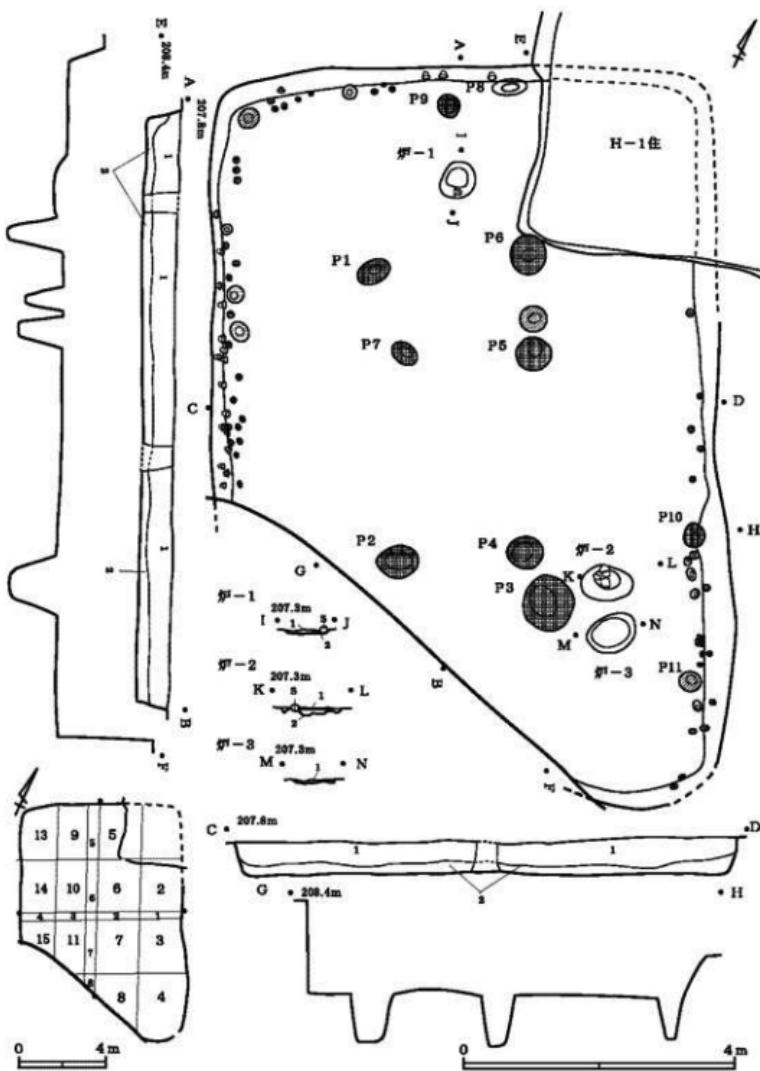
第10図 Y-2号住居址実測図



第11図 Y-3号住居址実測図

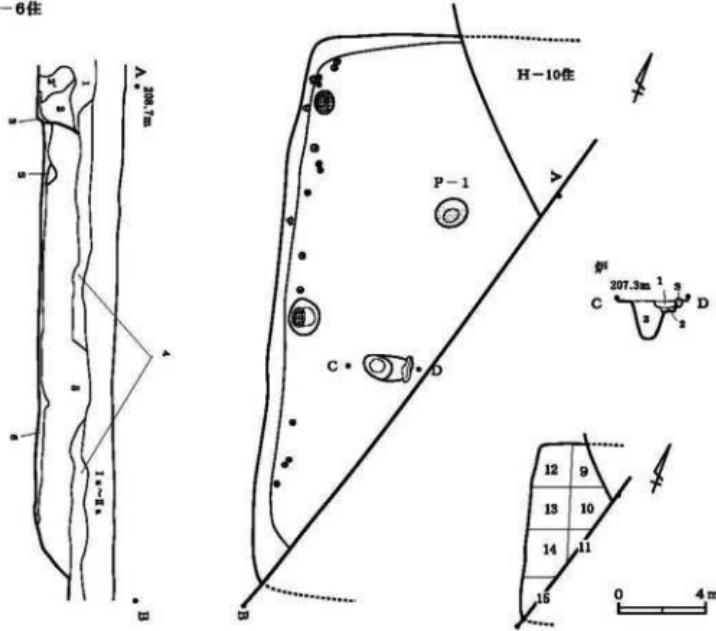


第12図 Y-4号住居址実測図

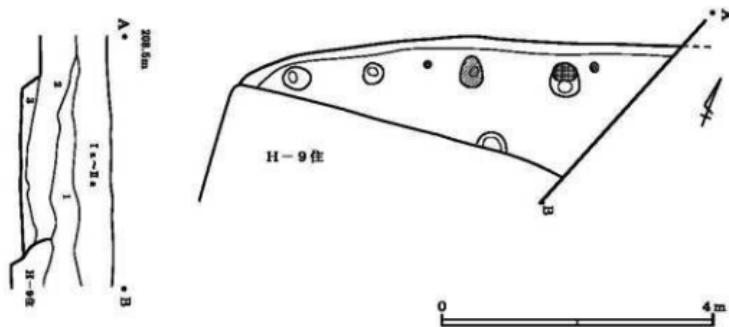


第13図 Y-5号住居址実測図

Y-6住



Y-7住



第14図 Y-6号・Y-7号住居址実測図

| 遺跡名 | 層番 | 層名 | 色調 | しまり | 粒性 | 侵入物 | | | | 備考 |
|----------|----|--------|------|-----|----|-----|----|----|-----|--------------|
| | | | | | | EP | RB | YP | 炭化物 | |
| Y-3住 | 1 | 褐色土層 | ○ | ○ | | | | | ○ | |
| | 2 | 褐色土層 | 1<2 | ○ | | △ | | | ○ | |
| | 3 | 褐色土層 | 2<3 | ○ | ○ | △ | △ | | | |
| | 3' | 褐色土層 | 3<3' | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| | 4 | 暗褐色土層 | | ○ | ○ | | | | | |
| P1 | 1 | 暗褐色土層 | | ○ | ○ | | | | △ | |
| | 2 | 暗黃褐色土層 | | ○ | ○ | ○ | | | △ | |
| P2 | 1 | 暗褐色土層 | | ○ | ○ | | | | ○ | |
| | 2 | 暗黃褐色土層 | | ○ | △ | | | | ○ | |
| Y-2住 | 1 | 褐色土層 | ○ | ○ | | ○ | | | ○ | |
| | 1' | 褐褐色土層 | ○ | ○ | | | | | ○ | |
| | 2 | 暗黃褐色土層 | ○ | ○ | ○ | ○ | △ | △ | | |
| | 2' | 暗黃褐色土層 | ○ | ○ | | | | | | |
| | 3 | 暗黃褐色土層 | 2<3 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| | 3' | 暗黃褐色土層 | 3'<3 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| | 4 | 暗黃褐色土層 | 3'<4 | ○ | ○ | | | | | |
| | 5 | 褐色土層 | 5<1 | ○ | ○ | | | | | |
| | 6 | 黃褐色土層 | ○ | ○ | | | | | | |
| | 7 | 褐色土層 | × | ○ | | | | | | |
| P1 | 1 | 褐色土層 | △ | × | | | | | | |
| | 2 | 褐色土層 | ○ | ○ | △ | | | | △ | |
| P2 | 1 | 褐色土層 | ○ | ○ | △ | | | | △ | |
| | 2 | 赤褐色土層 | ○ | ○ | | | | | | |
| | 3 | 暗黃褐色土層 | 2<1 | ○ | ○ | | | | | |
| ロームアンド部分 | 1 | 暗黃褐色土層 | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| | 2 | 暗黃褐色土層 | 2<1 | ○ | ○ | | | | | |
| | 3 | 褐色土層 | ○ | ○ | △ | | | | | |
| | 4 | 褐色土層 | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| Y-3住 | 1 | 暗褐色土層 | ○ | ○ | △ | △ | | | △ | |
| | 2 | 暗褐色土層 | 2<1 | ○ | ○ | △ | | | △ | |
| | 3 | 暗褐色土層 | 1<3 | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | |
| | 4 | 暗褐色土層 | 4<3 | ○ | ○ | △ | △ | | △ | |
| | 5 | 暗褐色土層 | 1<5 | ○ | ○ | △ | △ | | △ | |
| | 6 | 暗褐色土層 | △ | ○ | △ | △ | | | △ | |
| | 7 | 黃褐色土層 | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| | 8 | 褐色土層 | ○ | ○ | △ | | | | | |
| P1 | 1 | 褐色土層 | ○ | ○ | △ | | | | △ | |
| | 2 | 褐色土層 | ○ | ○ | ○ | | | | △ | |
| P2 | 1 | 褐色土層 | ○ | ○ | △ | | | | △ | |
| | 2 | 赤褐色土層 | ○ | ○ | | | | | | |
| | 3 | 暗黃褐色土層 | 2<1 | ○ | ○ | | | | | |
| Y-3P | 1 | 褐色土層 | ○ | ○ | △ | | | | ○ | |
| | 2 | 赤褐色土層 | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | |
| Y-4住 | 1 | 褐色土層 | ○ | ○ | | | | | △ | |
| | 2 | 褐色土層 | 1<2 | ○ | ○ | ● | ● | | △ | |
| | 3 | 褐色土層 | 2<3 | ○ | ○ | ○ | ○ | | △ | |
| | 4 | 褐色土層 | 1<4 | ○ | ○ | △ | △ | | △ | |
| | 4' | 褐色土層 | ○ | ○ | ○ | ● | ● | | △ | |
| | 5 | 褐色土層 | 3<5 | ○ | ○ | ○ | ○ | | △ | |
| Y-5P | 1 | 褐色土層 | ○ | ○ | ● | ● | | | ○ | |
| | 2 | 赤褐色土層 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | |
| Y-6住 | 1 | 褐色土層 | ○ | ○ | | | | | △ | |
| | 2 | 褐色土層 | 1<2 | ○ | ○ | △ | | | △ | |
| | 3 | 暗褐色土層 | 2<3 | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | |
| | 4 | 褐色土層 | 1<4 | ○ | ○ | △ | △ | | △ | |
| | 5 | 褐色土層 | ○ | ○ | ○ | ● | ● | | △ | |
| Y-6P | 1 | 褐色土層 | ○ | ○ | | | | | △ | |
| | 2 | 褐色土層 | 1<2 | ○ | ○ | △ | | | △ | |
| P1 | 1 | 暗褐色土層 | ○ | ○ | | | | | ○ | |
| | 2 | 褐色土層 | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | |
| P2 | 1 | 褐色土層 | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | |
| | 2 | 暗黃褐色土層 | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | |
| P3 | 1 | 暗黃褐色土層 | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | |
| | 2 | 褐色土層 | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | |
| Y-9住 | 1 | 褐色土層 | ○ | ○ | | | | | ○ | H-10鐵土 |
| | 2 | 暗褐色土層 | ○ | ○ | △ | △ | | | ○ | H-10鐵土 |
| | 2' | 暗褐色土層 | 2<2' | ○ | ○ | ○ | △ | | ○ | H-10鐵土 |
| | 3 | 暗黃褐色土層 | ○ | ○ | ○ | △ | | | ○ | H-10鐵土 |
| | 4 | 褐色土層 | △ | △ | | | | | △ | 近代の耕作によるものか? |
| | 5 | 褐色土層 | 5<2 | ○ | ○ | ● | ● | | △ | (2層より古い) |
| | 6 | 暗黃褐色土層 | 5<3 | ○ | ○ | ○ | ○ | | △ | (3層より古い) |
| | 1 | 暗褐色土層 | ○ | ○ | △ | | | | ○ | |
| | 2 | 暗褐色土層 | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | |
| | 3 | 暗黃褐色土層 | 3<2 | ○ | ○ | △ | | | | |
| Y-7住 | 1 | 褐色土層 | ○ | ○ | | | | | △ | |
| | 2 | 褐色土層 | 1<2 | ○ | ○ | | | | △ | |
| | 3 | 暗黃褐色土層 | | ○ | | | | | △ | |

第3表 弥生時代住居址土層説明

(4) 後期の遺物

1. 土器

住居址出土土器の主な器種は壺、甕、台付甕、鉢、高坏、ミニチュア土器である。文様が櫛描文の組み合わせで構成されるのを主体とする弥生V3期の土器群である。

[住居址出土の土器]

Y-1号住居址出土の土器(第15図・第16図)

壺(第15図1~15)、甕(第15図16~23、第16図1)、台付甕(第16図2、9~12)、甕底部(第16図3~5)、高坏(第16図6~8)、ミニチュア土器(第16図17~19)を図示した。

Y-2号住居址出土の土器(第16図)

壺(20~22)、甕(23~26)、鉢(27)、高坏(28~29)、台付甕(30)、甕底部(31)を図示した。

Y-3号住居址出土の土器(第17図)

壺(1~8)、甕(9~12)、高坏(13)を図示した。

Y-4号住居址出土の土器(第16図)

甕(32)を図示した。

Y-5号住居址出土の土器(第18図・第19図)

壺(第19図1~13)、甕(第18図1~6、第19図14~18)、台付甕(第18図7・8、第19図19・20)、高坏(第18図9・10、第19図21~25)、鉢(第18図11~13)、ミニチュア土器(第18図14)、底部(第18図15・16)を図示した。

Y-6号住居址出土の土器(第20図)

壺(1~15)、甕(16~21)、鉢(22)、高坏(23~25)、台付甕(26)を図示した。

Y-7号住居址出土の土器(第20図)

壺(28)と甕(27)を図示した。

(井上慎也)

[土器の特徴]

壺

壺は口縁平縁で折り返し口縁となるものも存在する。口縁部には波状文が施される。器形は胴部中央部に脹らみをもち、頭部が括れ口縁部が大きく外反する。調整は内外面ともヘラミガキを多用するが、一部で櫛描文(ハケメ)、ヘラナデも認められる。また、胴部の上下で調整を分けるものもある。頭部及び胴部には櫛描波状文、その間には櫛描廉状文が施される点で甕と共通する。壺のみの特徴として、胴部上半部に櫛描T地文が施されるもの、ボタン状の貼付文があるもの

である。また、外面には赤彩が施されるものも多数ある。調整、文様の様相から、県内に広く分布する梯式土器の系譜が認められるが、梯描丁地文をもつ壺は「富岡型」とされる鍋川流域一帯に分布する甘楽系の系譜をもつものとして注目される。

壺

壺は口縁平縁でやや外反するものと内湾するものがあり、胴部は中央部が膨らむ算盤形である。胴部が球状で口縁部の開きが大きいタイプも認められる。調整は外面にヘラナデの他にヘラミガキを多用する。文様は梯描波状文が口縁部、胴上半部、頸部には2連止めと3連以上の多連止廉状文が施される。Y-3・5号住居址の壺では中型、小型、極小型がある。いずれも口縁に無文帯を持たず、梯描文で充填されるものである。全て波状文による施文と頸部に廉状文、口縁と胴部に波状文という組み合わせで装飾する。

台付壺

台付壺は壺との共通性が認められる。大きさは小型が主体である。

鉢

鉢の器形は低く口縁が大きく外反する。調整は内外面共にヘラミガキが施され、丁寧に仕上げられている。外面に赤彩が施される。

高坏

体部(坏部)は大きく外反し、脚部から底部は緩やかに外反する。口唇部が水平で刻み目をもつものも認められる。調整は体部内外面はヘラミガキを多用し、脚部内面はヘラケズリも認められる。外面にはヘラミガキあるいはヘラナデが用いられる。高坏も内外面共に赤彩が施される。

ミニチュア土器

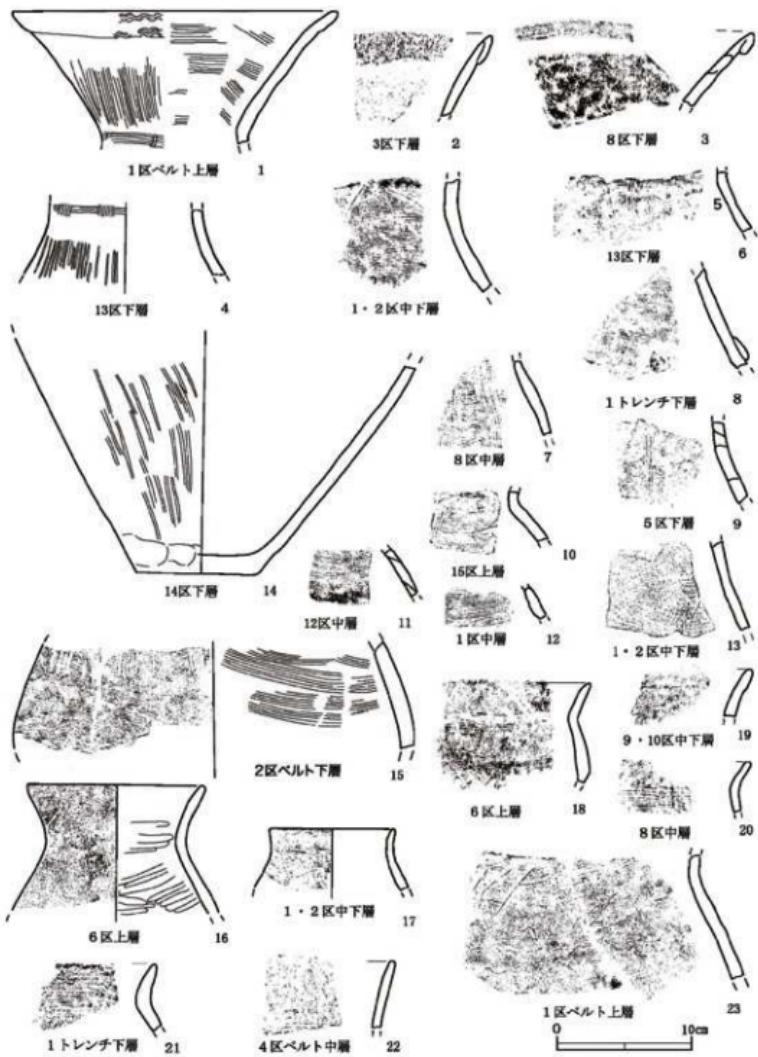
手捏ねによって製作された土器で、器高が低く、内外面の調整がやや粗いものが多い。調整にはヘラナデあるいはヘラケズリが用いられる。

(若狭 徹)

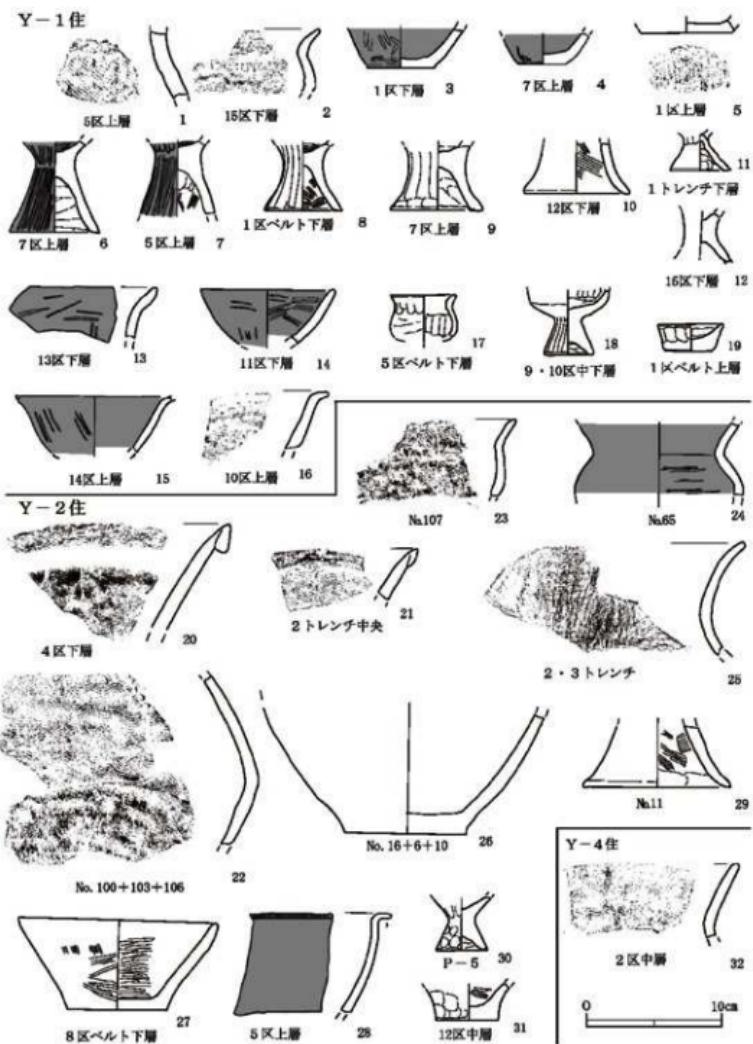
2. 土製品(第18図)

土製匙(17)は、先端と基部が欠損しているが、先端部がやや膨らみ匙部が浅く凹んだ細身である。高橋遺跡でも出土している。

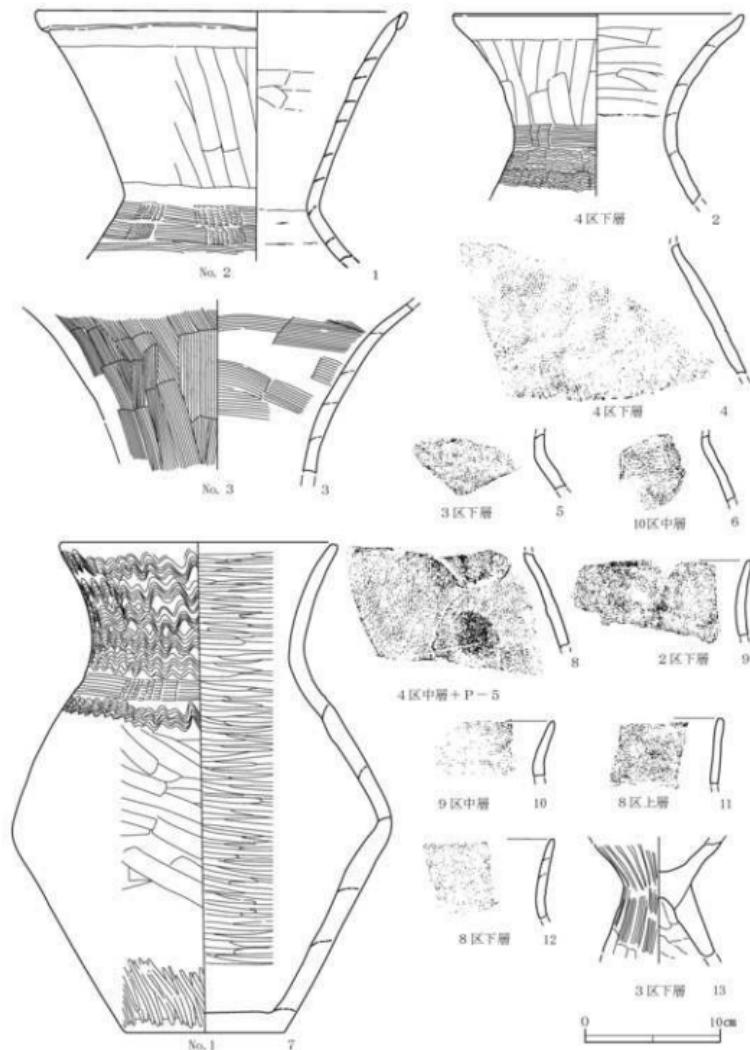
(井上慎也)



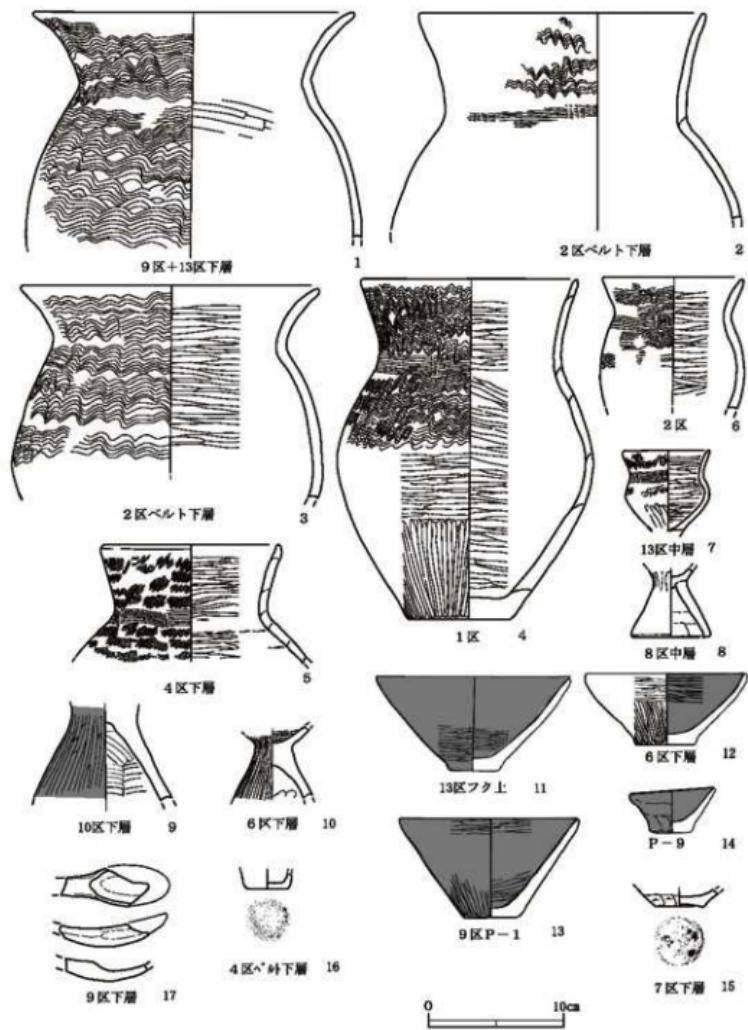
第15図 Y-1号住居址出土の土器実測図



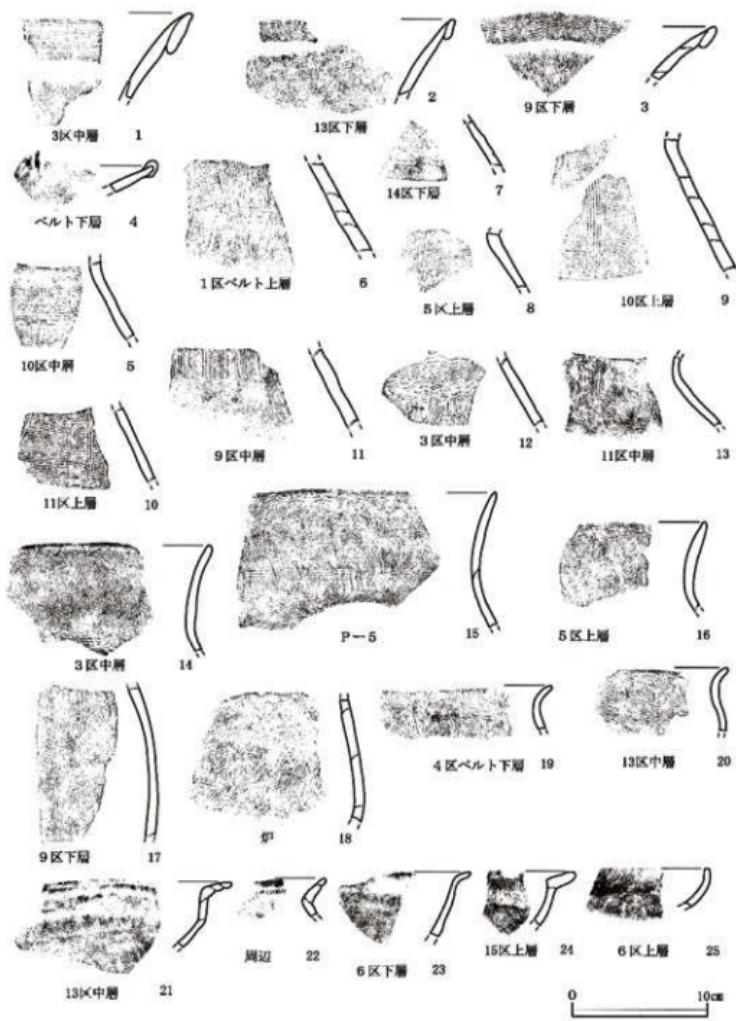
第16図 Y-1号・Y-2号・Y-4号住居址出土の土器実測図



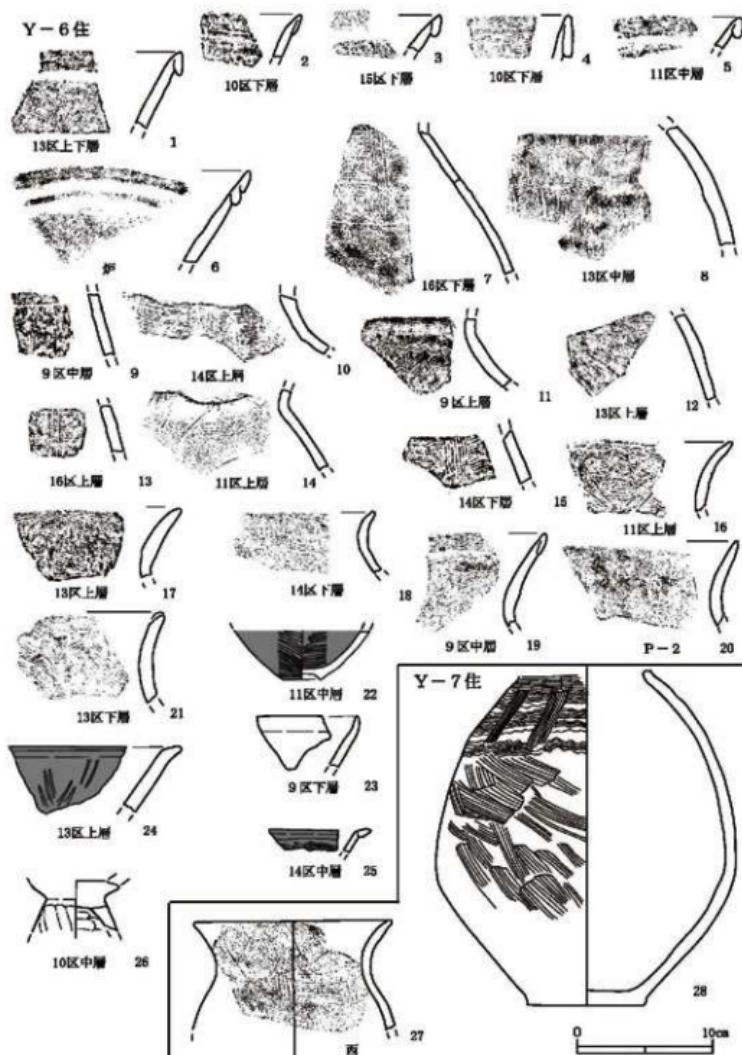
第17図 Y-3号住居址出土の土器実測図



第18図 Y-5号住居址出土の土器実測図(1)



第19図 Y-5号住居址出土の土器実測図(2)



第20図 Y-6号・Y-7号住居址出土の土器実測図

3. 石器(第4表)

遺物包含層及び遺構覆土から多数の石器が出土した。ここでは住居址の石器組成の傾向と弥生時代に帰属すると思われる器種に限定して報告する。石器組成の傾向としては弥生石器は石鍬、扁平片刃石斧、部分研磨砾、砥石、台石等で、縄文石器と共に通るのが石鍬、石錐、スクレイバー類、凹石、磨石、台石、砥石、敲石がある。両者を区別できないにせよ、中期及び後期の石器群の存在が想定できる。石材組成での縄文石器との違いは黒色安山岩及びやや細粒の安山岩を多用する点で、縄文石器の石材とはやや異なる石質を石材として選択する傾向がある。また、石斧(石鍬)においても輝緑岩・凝灰岩・結晶片岩を多用し、縄文石材及び石質とは選択が異なる。こうした石材の違いから弥生住居から出土した石器の中には、土器との共伴により中期及び後期の石器群が含まれている可能性が高いと考えられる。

【石器各説】(第21図)

打製石包丁 1は結晶片岩製の打製石包丁とされるスクレイバーである。横長剥片を素材としており、直接打撃によって、縁辺部に調整が施されている。縁辺に穿孔(半円形)した跡が残り、磨滅している。

石鍬 2は安山岩製である。自然面を残した横長剥片に両面を直接打撃によって調整を施す。形態は刃部が聞くうちわ形である。3は結晶片岩製である。扁平板状の厚手剥片の側縁部を直接打撃によって調整を施す。形態は2と同じである。刃部が欠損する。

扁平片刃石斧 5は扁平片刃石斧と考えられる。縄文時代の磨製石斧とも考えられるが、弥生のものとした。全面研磨された定角式である。石材は青緑色の綠色岩類である。

石製品 9は白色凝灰岩製で側縁は研磨により面取りされている。表裏とも磨かれている。扁平円形であるが、用途不明である。11は石製紡錘車である。

その他の石器 4は磨製石斧である。形態から縄文前期の可能性もある。6は土器製作に使用された部分研磨石器(表面を撫でるための工具)である。7・8は砥石である。7は側縁がやや内湾している。

(井上慎也)

4. その他の遺物(第21図)

ガラス小玉(12)はY-2号住居址から出土した。色は透明なコバルトブルーである。古墳時代の遺物とも考えられるが、遺物の出土状況から弥生時代のものとした。

(井上慎也)

聚丙烯成

T-20

高橋／吉田　黒崎石　チャート　高崎系　宝山石系　宝山石系(複数)　伊勢系　片山系　褐色細粒岩　宝山系

| | | | | | | | | |
|---------|----|---|---|---|---|---|---|---|
| PLA | 20 | | | | | | | |
| PCP | | 9 | | | | | | |
| PCB | | 1 | 6 | | | | | |
| PEI | | | | | | 1 | | |
| PEV | | | | | | 3 | | |
| PEI-PEV | 20 | 0 | 4 | 4 | 3 | 3 | 0 | 3 |

新規／登録 ディレクト検索 実行履歴 終了用 片値用 請負取扱

| 樹種別 | 石材 | Y-1位 | Y-2位 | Y-3位 | Y-4位 | Y-5位 | Y-6位 | Y-7位 |
|------|-------|------|------|------|------|------|------|------|
| A樹種群 | 櫟 | 22 | 27 | 35 | 4 | 6 | 1 | 1 |
| | チヤード | 1 | 1 | | 1 | 2 | | |
| | 緑色実山椒 | 1 | | | | | | |
| B樹種群 | 楓 | 20 | 7 | 4 | 1 | 20 | | |
| | 白樺 | 30 | 30 | 5 | 4 | 25 | 4 | |
| | モミ | | | | | | | |
| C樹種群 | 銀葉月桂 | | | | | | | 1 |
| | 椎山楠 | 0 | 0 | 0 | | 6 | 6 | |
| | 檫木 | | | | | 2 | 1 | |
| D樹種群 | ムク | | | | | 1 | 1 | |
| | 緑色実山椒 | 1 | | | | | | |
| | シラカバ | | | | | | | |
| E樹種群 | 月桂樹 | 2 | | | | | | |
| | モミ | | | | | 2 | | |
| F樹種群 | シラカバ | | | | | | | 1 |
| | 緑色実山椒 | 1 | | | | | | |
| G樹種群 | シラカバ | 26 | 30 | 30 | 22 | 40 | 12 | |
| | モミ | | | | | | | |

聚酯平列側石材相成

| | | | | | | |
|----|--|--|--|---|--|--|
| 名前 | | | | 1 | | |
| 姓氏 | | | | 2 | | |

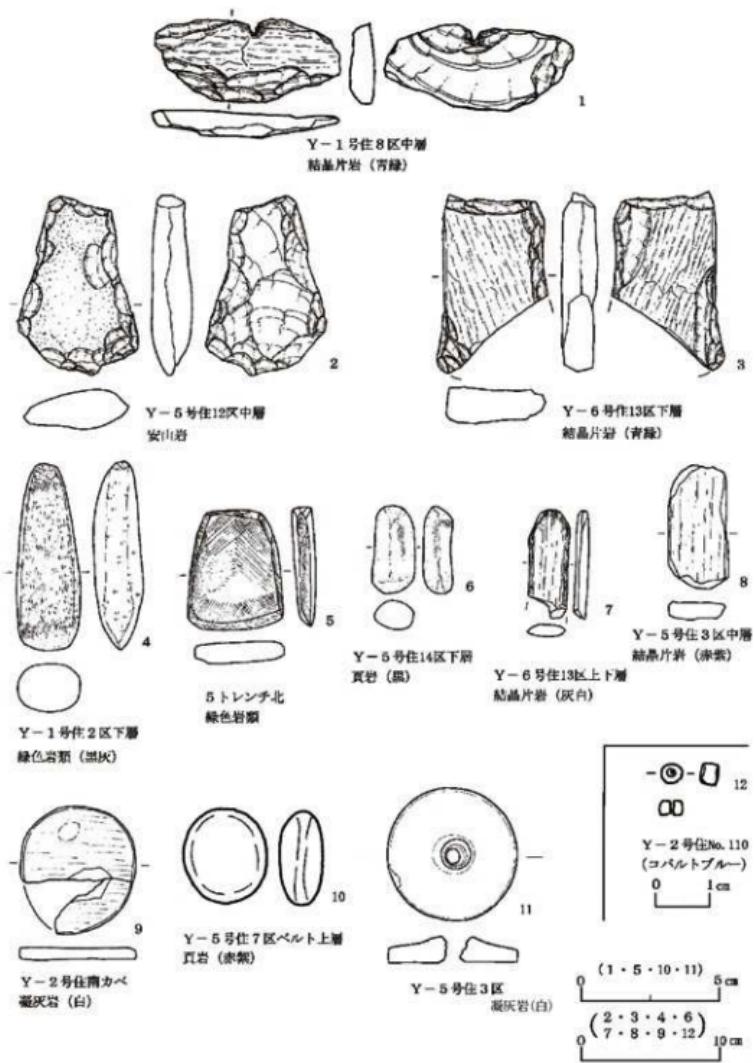
| | | | |
|------|---|----|----|
| 民女 | 7 | 1 | |
| 民男 | 9 | 20 | |
| 总计 | | | 28 |
| 性别 | | | 2 |
| 年龄 | | | 1 |
| 文化程度 | 1 | | 1 |
| 民族 | | | 1 |
| 宗教 | | | 1 |
| 婚姻状况 | | | 1 |
| 职业 | | | 1 |
| 收入情况 | | | 1 |
| 综合 | 6 | 21 | 28 |
| | 0 | 3 | 3 |
| | 1 | 0 | 0 |

卷之三十一

| Card | I | | | | | |
|------|---|--|--|--|--|--|
| 1 | | | | | | |
| 2 | | | | | | |
| 3 | | | | | | |
| 4 | | | | | | |
| 5 | | | | | | |
| 6 | | | | | | |
| 7 | | | | | | |
| 8 | | | | | | |
| 9 | | | | | | |
| 10 | | | | | | |
| 11 | | | | | | |
| 12 | | | | | | |
| 13 | | | | | | |
| 14 | | | | | | |
| 15 | | | | | | |
| 16 | | | | | | |
| 17 | | | | | | |
| 18 | | | | | | |
| 19 | | | | | | |
| 20 | | | | | | |
| 21 | | | | | | |
| 22 | | | | | | |
| 23 | | | | | | |
| 24 | | | | | | |
| 25 | | | | | | |
| 26 | | | | | | |
| 27 | | | | | | |
| 28 | | | | | | |
| 29 | | | | | | |
| 30 | | | | | | |
| 31 | | | | | | |
| 32 | | | | | | |
| 33 | | | | | | |
| 34 | | | | | | |
| 35 | | | | | | |
| 36 | | | | | | |
| 37 | | | | | | |
| 38 | | | | | | |
| 39 | | | | | | |
| 40 | | | | | | |
| 41 | | | | | | |
| 42 | | | | | | |
| 43 | | | | | | |
| 44 | | | | | | |
| 45 | | | | | | |
| 46 | | | | | | |
| 47 | | | | | | |
| 48 | | | | | | |
| 49 | | | | | | |
| 50 | | | | | | |
| 51 | | | | | | |
| 52 | | | | | | |
| 53 | | | | | | |
| 54 | | | | | | |
| 55 | | | | | | |
| 56 | | | | | | |
| 57 | | | | | | |
| 58 | | | | | | |
| 59 | | | | | | |
| 60 | | | | | | |
| 61 | | | | | | |
| 62 | | | | | | |
| 63 | | | | | | |
| 64 | | | | | | |
| 65 | | | | | | |
| 66 | | | | | | |
| 67 | | | | | | |
| 68 | | | | | | |
| 69 | | | | | | |
| 70 | | | | | | |
| 71 | | | | | | |
| 72 | | | | | | |
| 73 | | | | | | |
| 74 | | | | | | |
| 75 | | | | | | |
| 76 | | | | | | |
| 77 | | | | | | |
| 78 | | | | | | |
| 79 | | | | | | |
| 80 | | | | | | |
| 81 | | | | | | |
| 82 | | | | | | |
| 83 | | | | | | |
| 84 | | | | | | |
| 85 | | | | | | |
| 86 | | | | | | |
| 87 | | | | | | |
| 88 | | | | | | |
| 89 | | | | | | |
| 90 | | | | | | |
| 91 | | | | | | |
| 92 | | | | | | |
| 93 | | | | | | |
| 94 | | | | | | |
| 95 | | | | | | |
| 96 | | | | | | |
| 97 | | | | | | |
| 98 | | | | | | |
| 99 | | | | | | |
| 100 | | | | | | |
| 101 | | | | | | |
| 102 | | | | | | |
| 103 | | | | | | |
| 104 | | | | | | |
| 105 | | | | | | |
| 106 | | | | | | |
| 107 | | | | | | |
| 108 | | | | | | |
| 109 | | | | | | |
| 110 | | | | | | |
| 111 | | | | | | |
| 112 | | | | | | |
| 113 | | | | | | |
| 114 | | | | | | |
| 115 | | | | | | |
| 116 | | | | | | |
| 117 | | | | | | |
| 118 | | | | | | |
| 119 | | | | | | |
| 120 | | | | | | |
| 121 | | | | | | |
| 122 | | | | | | |
| 123 | | | | | | |
| 124 | | | | | | |
| 125 | | | | | | |
| 126 | | | | | | |
| 127 | | | | | | |
| 128 | | | | | | |
| 129 | | | | | | |
| 130 | | | | | | |
| 131 | | | | | | |
| 132 | | | | | | |
| 133 | | | | | | |
| 134 | | | | | | |
| 135 | | | | | | |
| 136 | | | | | | |
| 137 | | | | | | |
| 138 | | | | | | |
| 139 | | | | | | |
| 140 | | | | | | |
| 141 | | | | | | |
| 142 | | | | | | |
| 143 | | | | | | |
| 144 | | | | | | |
| 145 | | | | | | |
| 146 | | | | | | |
| 147 | | | | | | |
| 148 | | | | | | |
| 149 | | | | | | |
| 150 | | | | | | |
| 151 | | | | | | |
| 152 | | | | | | |
| 153 | | | | | | |
| 154 | | | | | | |
| 155 | | | | | | |
| 156 | | | | | | |
| 157 | | | | | | |
| 158 | | | | | | |
| 159 | | | | | | |
| 160 | | | | | | |
| 161 | | | | | | |
| 162 | | | | | | |
| 163 | | | | | | |
| 164 | | | | | | |
| 165 | | | | | | |
| 166 | | | | | | |
| 167 | | | | | | |
| 168 | | | | | | |
| 169 | | | | | | |
| 170 | | | | | | |
| 171 | | | | | | |
| 172 | | | | | | |
| 173 | | | | | | |
| 174 | | | | | | |
| 175 | | | | | | |
| 176 | | | | | | |
| 177 | | | | | | |
| 178 | | | | | | |
| 179 | | | | | | |
| 180 | | | | | | |
| 181 | | | | | | |
| 182 | | | | | | |
| 183 | | | | | | |
| 184 | | | | | | |
| 185 | | | | | | |
| 186 | | | | | | |
| 187 | | | | | | |
| 188 | | | | | | |
| 189 | | | | | | |
| 190 | | | | | | |
| 191 | | | | | | |
| 192 | | | | | | |
| 193 | | | | | | |
| 194 | | | | | | |
| 195 | | | | | | |
| 196 | | | | | | |
| 197 | | | | | | |
| 198 | | | | | | |
| 199 | | | | | | |
| 200 | | | | | | |
| 201 | | | | | | |
| 202 | | | | | | |
| 203 | | | | | | |
| 204 | | | | | | |
| 205 | | | | | | |
| 206 | | | | | | |
| 207 | | | | | | |
| 208 | | | | | | |
| 209 | | | | | | |
| 210 | | | | | | |
| 211 | | | | | | |
| 212 | | | | | | |
| 213 | | | | | | |
| 214 | | | | | | |
| 215 | | | | | | |
| 216 | | | | | | |
| 217 | | | | | | |
| 218 | | | | | | |
| 219 | | | | | | |
| 220 | | | | | | |
| 221 | | | | | | |
| 222 | | | | | | |
| 223 | | | | | | |
| 224 | | | | | | |
| 225 | | | | | | |
| 226 | | | | | | |
| 227 | | | | | | |
| 228 | | | | | | |
| 229 | | | | | | |
| 230 | | | | | | |
| 231 | | | | | | |
| 232 | | | | | | |
| 233 | | | | | | |
| 234 | | | | | | |
| 235 | | | | | | |
| 236 | | | | | | |
| 237 | | | | | | |
| 238 | | | | | | |
| 239 | | | | | | |
| 240 | | | | | | |
| 241 | | | | | | |
| 242 | | | | | | |
| 243 | | | | | | |
| 244 | | | | | | |
| 245 | | | | | | |
| 246 | | | | | | |
| 247 | | | | | | |
| 248 | | | | | | |
| 249 | | | | | | |
| 250 | | | | | | |
| 251 | | | | | | |
| 252 | | | | | | |
| 253 | | | | | | |
| 254 | | | | | | |
| 255 | | | | | | |
| 256 | | | | | | |
| 257 | | | | | | |
| 258 | | | | | | |
| 259 | | | | | | |
| 260 | | | | | | |
| 261 | | | | | | |
| 262 | | | | | | |
| 263 | | | | | | |
| 264 | | | | | | |
| 265 | | | | | | |
| 266 | | | | | | |
| 267 | | | | | | |
| 268 | | | | | | |
| 269 | | | | | | |
| 270 | | | | | | |
| 271 | | | | | | |
| 272 | | | | | | |
| 273 | | | | | | |
| 274 | | | | | | |
| 275 | | | | | | |
| 276 | | | | | | |
| 277 | | | | | | |
| 278 | | | | | | |
| 279 | | | | | | |
| 280 | | | | | | |
| 281 | | | | | | |
| 282 | | | | | | |
| 283 | | | | | | |
| 284 | | | | | | |
| 285 | | | | | | |
| 286 | | | | | | |
| 287 | | | | | | |
| 288 | | | | | | |
| 289 | | | | | | |
| 290 | | | | | | |
| 291 | | | | | | |
| 292 | | | | | | |
| 293 | | | | | | |
| 294 | | | | | | |
| 295 | | | | | | |
| 296 | | | | | | |
| 297 | | | | | | |
| 298 | | | | | | |
| 299 | | | | | | |
| 300 | | | | | | |
| 301 | | | | | | |
| 302 | | | | | | |
| 303 | | | | | | |
| 304 | | | | | | |
| 305 | | | | | | |
| 306 | | | | | | |
| 307 | | | | | | |
| 308 | | | | | | |
| 309 | | | | | | |
| 310 | | | | | | |
| 311 | | | | | | |
| 312 | | | | | | |
| 313 | | | | | | |
| 314 | | | | | | |
| 315 | | | | | | |
| 316 | | | | | | |
| 317 | | | | | | |
| 318 | | | | | | |
| 319 | | | | | | |
| 320 | | | | | | |
| 321 | | | | | | |
| 322 | | | | | | |
| 323 | | | | | | |
| 324 | | | | | | |
| 325 | | | | | | |
| 326 | | | | | | |
| 327 | | | | | | |
| 328 | | | | | | |
| 329 | | | | | | |
| 330 | | | | | | |
| 331 | | | | | | |
| 332 | | | | | | |
| 333 | | | | | | |
| 334 | | | | | | |
| 335 | | | | | | |
| 336 | | | | | | |
| 337 | | | | | | |
| 338 | | | | | | |
| 339 | | | | | | |

解題別不對相處

第4章 改生石器組成來



第21図 弥生時代の石器・ガラス小玉実測図

4 古墳時代の遺構と遺物

(1)概要

前期終末(Ⅰ期)の住居址2軒、中期中葉(Ⅱ期)の住居址1軒、中期後半から後期初頭(Ⅲ期)の住居址6軒の合計9軒を調査した。Ⅰ・Ⅱ期の住居址は調査区の東側に集中し、Ⅲ期の住居址は西側に展開することから、Ⅲ期に台地西側へ居住域が拡大していったと推測できる。

主な出土遺物は土師器の壺類及び甕類が主体で、須恵器はⅢ期になって認められる。Ⅰ期の土器群は東海系の土器群(S字状口縁の台付甕等)とは系譜が異なる土器群である。Ⅱ期の土器群はこの時期で特徴的な内斜口縁壺を有する。Ⅲ期の土器群は、壺内面にミガキを施すものを含む壺の一群もみられる。また、碓氷川南岸では少ない内斜口縁の壺に短脚を付す高壺も出土した。特筆すべき点として、在地の系譜とは異なる籠目土器も出土した。

(2)遺構(第22図～第29図・第5表)

I期の住居址(H-1・9号住居址)

平面正方形で、4本柱をもつものと柱がないものに分けられる。貯蔵穴は住居址の隅に配置される。2軒とも焼失住居である。壁面及び壁際に小ピットがあり、これらは屋根を支えたと考えられる柱穴と思われる。なお、この小ピットに対応するように柱、垂木と推定される炭化材が多数検出された。

II期の住居址(H-10号住居址)

住居の西半部を調査しただけで、構造は不明である。主柱穴はないものの壁際に小ピットが存在する。この住居址も焼失しており、炭化材が検出された。

III期の住居址(H-2・3・4・5・7・8号住居址)

平面正方形で4本柱をもつ。壁際に周溝が巡るものも認められる。東辺には竈が存在する。主軸は東方向で一致し、確認した住居址は同時期に存在した可能性が高い。竈脇には貯蔵穴が存在する。これらの住居の中には焼失しているものも認められ、炭化材も検出された。なお、他時期の住居址同様、壁際に小ピットが認められた。

(外山政子・井上慎也加筆)

| 住居名 | 平面形態 | 規模 | | | 壁溝 | 主軸方向 | 土坑 竪濠 | 主柱穴 ビット | 壁面 底質 | 竪・仰 構造 | 時期 | 備考 | |
|------|-------|--------|--------|------|----|----------|----------|------------|---------------------|---------------------|----------|---|-------------------|
| | | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | | | | | | |
| H-1 | 中形正方形 | 4.12 | 4.21 | 0.71 | | N-18°-W | 東南 | ○ | 不明 | | I | 焼失住居 | |
| H-2 | 中形正方形 | 4.42 | 4.88 | 0.28 | 全周 | N-102°-E | 右 | ○ | 竪：東 /天井石。 支脚埋 | B / 天井石。 支脚埋 | III | 焼失住居。覆土中(2層)に多数の遺出土。 竪周辺に遺物集中。 | |
| H-3 | 中形 | 4.86 | (3.30) | 0.44 | | N-87°-E | | (4) | 不明 | | III | 焼失住居 | |
| H-4 | 小形 | (1.96) | 2.96 | 0.47 | | N-97°-E | 左右 | ○ | 竪：東 /天井石。 支脚埋 | B / 天井石。 | III | 焼失住居 | |
| H-5 | 中形長方形 | 5.46 | 4.56 | 0.32 | 南西 | N-89°-E | 右? | 4 | ○ | 竪：東 /天井石。 支脚埋 | B / 天井石。 | III | 焼失住居。地上崩落 部分有。 |
| H-7 | 中形 | (2.40) | 5.32 | 0.43 | | N-103°-E | 南東 | 4 | ○ | 不明 | III | 焼失住居? | |
| H-8 | 大形 | (5.42) | 7.12 | 0.32 | | N-79°-E | 右 | ○ | 不明 | 竪：東 /中央 | B | III | 焼失住居? |
| H-9 | 大形 | 6.28 | (5.40) | 0.36 | | N-4°-W | | 4 | ○ | 不明 | I | 焼失住居。床面に垂木、柱(梁等)の材残る(解体構造)。材には加工された角材も含まれる。壁面にも柱跡有。北東隅に炭化した編維状繊物検出。 | |
| H-10 | 中形 | (4.30) | 4.51 | 0.57 | | N-40°-W | | ○ | 不明 | | II | 焼失住居 | |

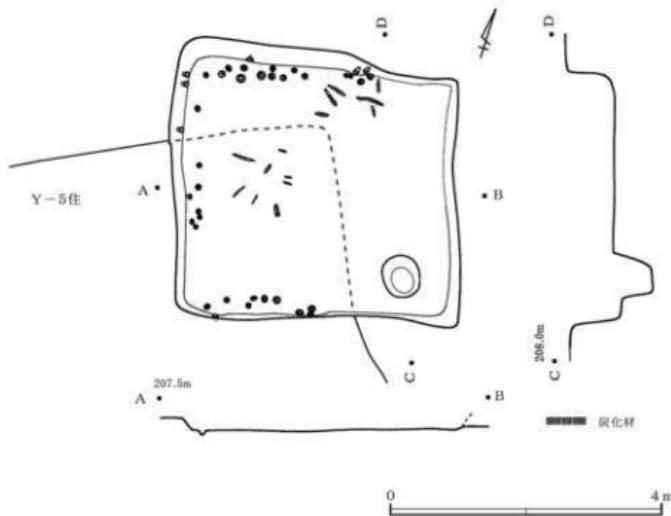
凡例

時期 I期(古墳前期終末) II期(古墳中期中葉) III期(古墳中期後葉～後期初頭)

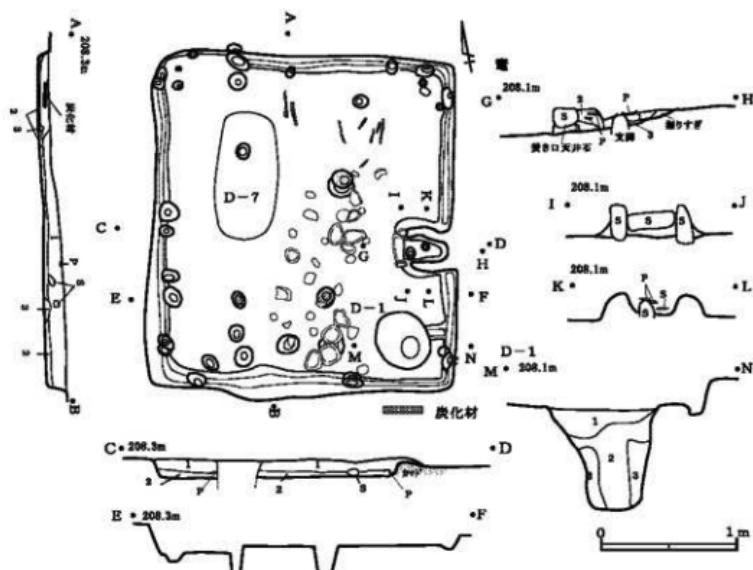
平面状態 大形：6m以上 中形：4～6m 小形：4m以下

竪構造 B：ローム+黒色土+袖芯河川礫

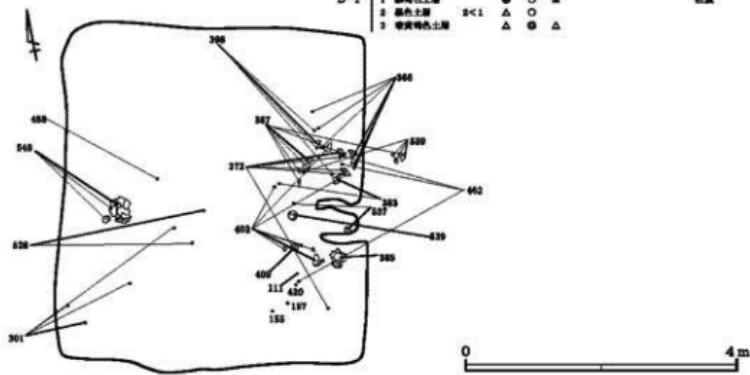
第5表 古墳時代住居址観察表



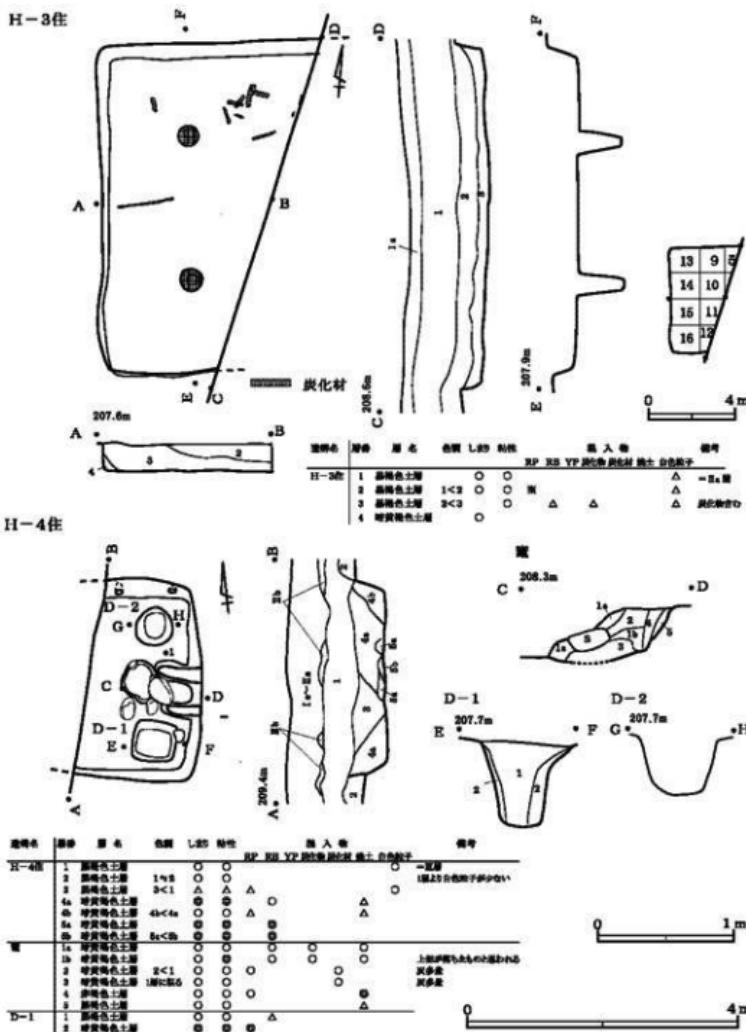
第22図 H-1号住居址実測図



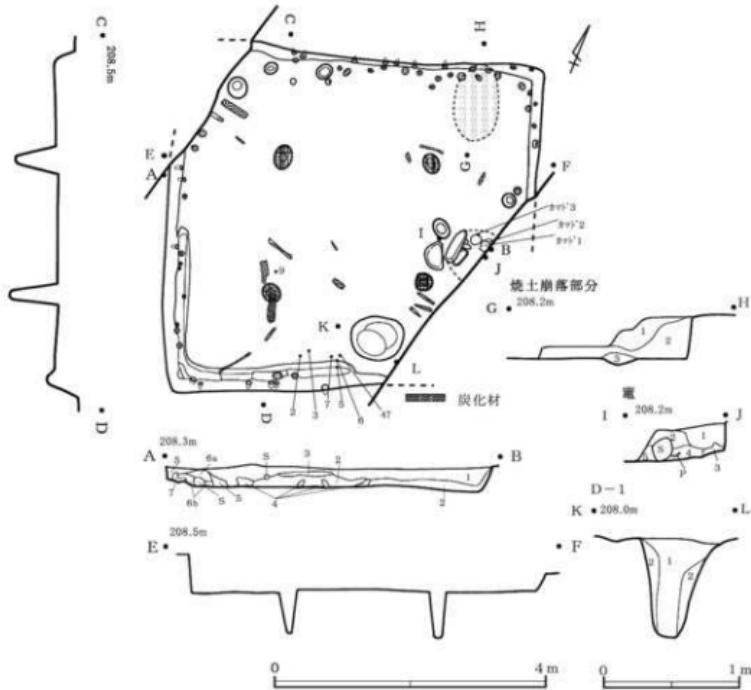
| 道種名 | 番号 | 品名 | 色相 | L* a* b* | | | 照度 | | | 備考 |
|------|----|--------|-----|----------|----|----|----|----|----|-----|
| | | | | L* | a* | b* | LP | RB | YP | |
| H-2色 | 1 | 標準地色土屋 | | ○ | ○ | | ○ | ○ | △ | |
| | 2 | 標準地色土屋 | B<1 | ○ | ○ | | △ | △ | ○ | |
| | 3 | 標準地色山屋 | 1<3 | △ | △ | ○ | | | | |
| 電 | 1 | 標準地色土屋 | | △ | △ | | ○ | ○ | ○ | |
| | 2 | 標準地色土屋 | 1<5 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ● | |
| | 3 | 標準地色山屋 | 3<1 | ○ | ○ | ○ | △ | △ | △ | |
| D-1 | 1 | 標準地色土屋 | | ○ | ○ | | | | | 測定用 |
| | 2 | 標準地色土屋 | B<1 | △ | △ | | | | | |
| | 3 | 標準地色山屋 | | △ | △ | △ | | | | |



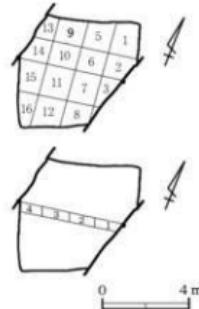
第23図 H-2号住居址実測図



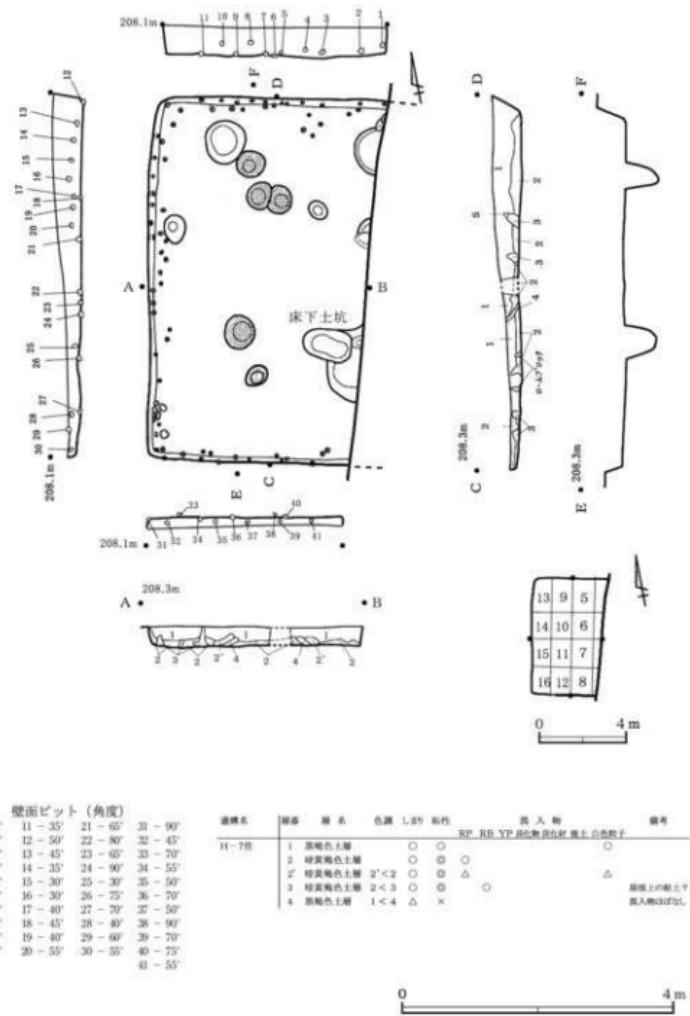
第24図 H-3号・H-4号住居址実測図



| 遺構名 | 層番 | 層名 | 色調 | L.E.M | 粒性 | 測定者 | 測定者 | | | 備考 |
|--------|----|--------|------|-------|----|-----|-----|----|----|-------|
| | | | | | | | BP | RB | VP | |
| H-5住 | 1 | 黒褐色土層 | ○ | ○ | | | ○ | | | |
| | 2 | 黒褐色土層 | 2<1 | ○ | ○ | △ | | △ | | |
| | 3 | 埋藏地の土層 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | |
| | 4 | 埋藏地の土層 | 4<3 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| | 5 | 黒褐色土層 | 1<5 | △ | ○ | △ | | | | |
| | 6a | 埋藏地の土層 | 4<6a | △ | ○ | △ | | | | |
| | 6b | 埋藏地の土層 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| 焼土崩落部分 | 7 | 老成地の土層 | △ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| | 1 | 焼粘土上層 | ○ | ○ | ○ | △ | △ | △ | | |
| | 2 | 焼粘土上層 | ○ | ○ | ○ | △ | △ | △ | | |
| 電 | 3 | 焼粘土上層 | 2<3 | ○ | ○ | ○ | | | | 1層に割合 |
| | 1 | 暗褐色土層 | ○ | ○ | △ | | △ | | | |
| | 2 | 暗黃褐色土層 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | |
| | 3 | 赤褐色土層 | 3<4 | ○ | ○ | △ | | ○ | | |
| | 5 | 暗褐色土層 | ○ | ○ | △ | | △ | | | |
| D-1 | 1 | 暗褐色土層 | ○ | ○ | △ | | | | | |
| | 2 | 暗黃褐色土層 | ○ | ○ | ○ | | | | | |

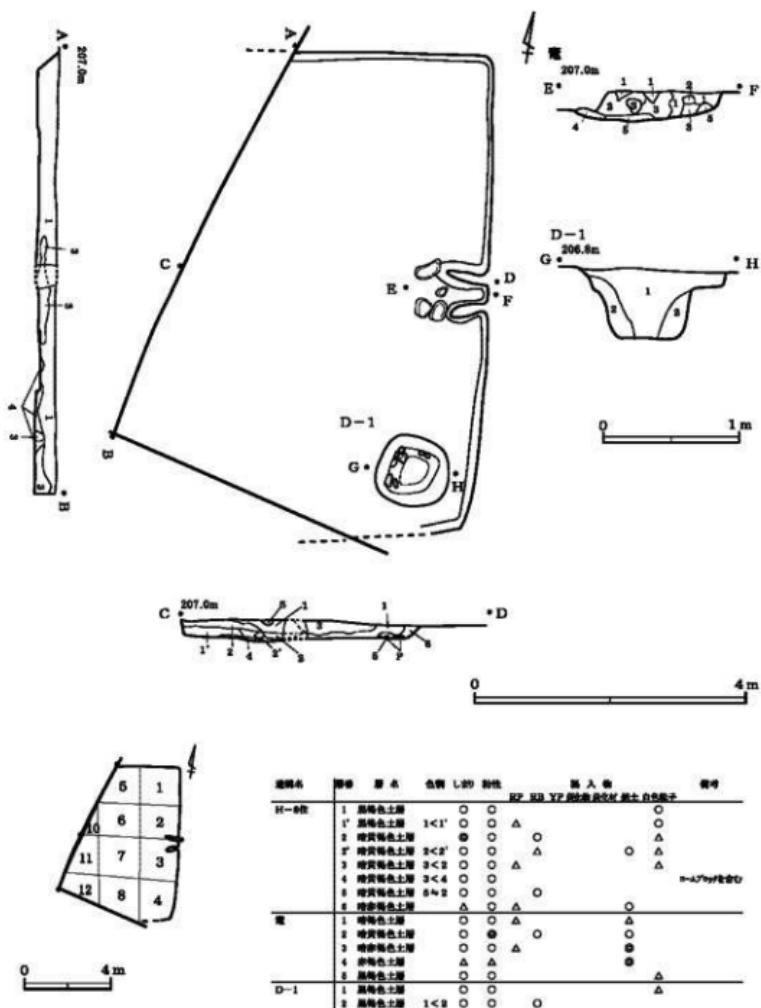


第25図 H-5号住居址実測図

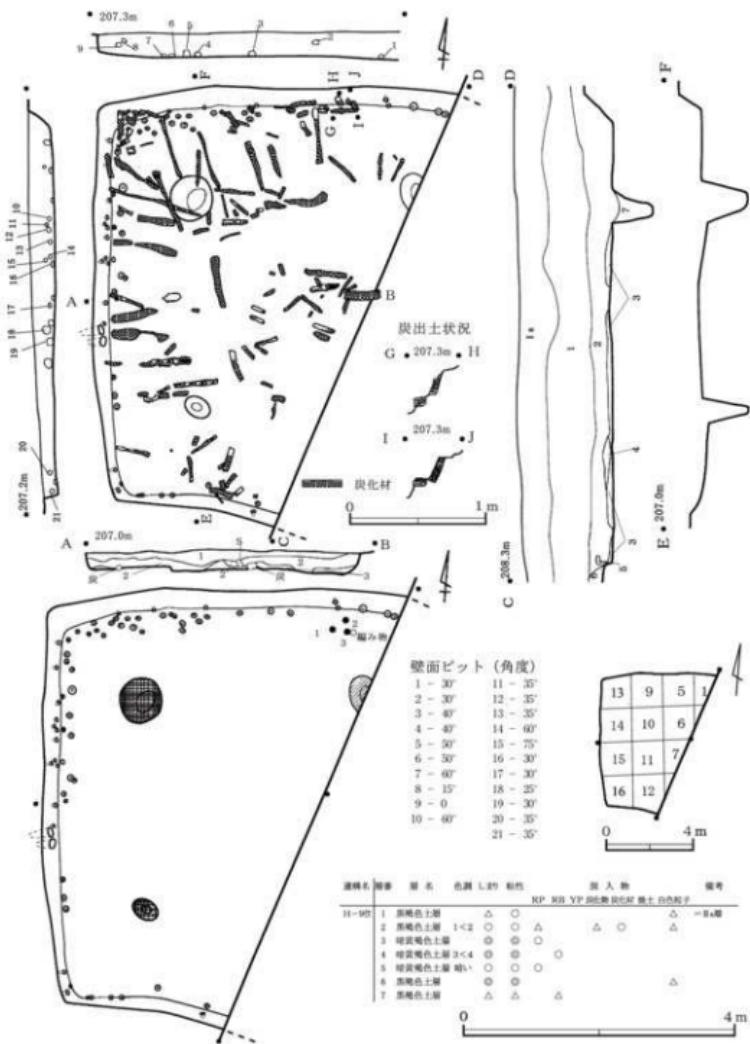


第26図 H-7号住居址実測図

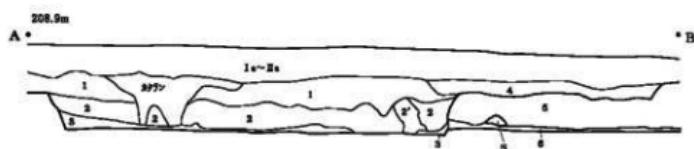
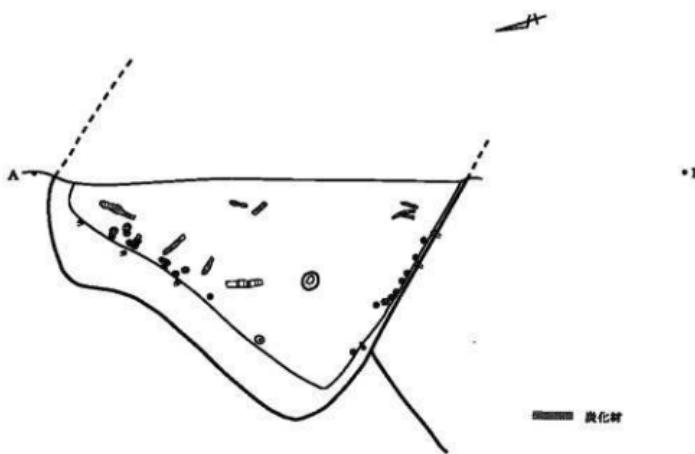
| 壁面ピット(角度) | | | 測点名 | 層番 | 層名 | 色調 | L/S/I | 属性 | 測入物 | 備考 |
|-----------|----------|----------|----------|------|------------|--------|-------|----|---------------------------|----|
| 1 - 55° | 11 - 35° | 21 - 65° | 31 - 90° | H-7段 | | | | | RP RB YP Hc Hg Hm Hw 白色粒子 | |
| 2 - 30° | 12 - 50° | 22 - 80° | 32 - 45° | | 1. 黒褐色土層 | ○ ○ | | | | ○ |
| 3 - 45° | 13 - 45° | 23 - 65° | 33 - 70° | | 2. 砂質褐色土層 | ○ ○ ○ | | | | |
| 4 - 35° | 14 - 35° | 24 - 90° | 34 - 55° | | 2'. 砂質褐色土層 | 2° < 2 | ○ ○ ○ | △ | | |
| 5 - 45° | 15 - 30° | 25 - 30° | 35 - 50° | | 3. 砂質褐色土層 | 2 < 3 | ○ ○ ○ | ○ | | |
| 6 - 70° | 16 - 30° | 26 - 75° | 36 - 70° | | 4. 黒褐色土層 | 1 < 4 | △ X | | | |
| 7 - 50° | 17 - 40° | 27 - 70° | 37 - 50° | | | | | | | |
| 8 - 35° | 18 - 45° | 28 - 40° | 38 - 90° | | | | | | | |
| 9 - 30° | 19 - 40° | 29 - 60° | 39 - 70° | | | | | | | |
| 10 - 40° | 20 - 55° | 30 - 55° | 40 - 25° | | | | | | | |
| | | | 41 - 55° | | | | | | | |



第27図 H-8号居住址実測図



第28図 H-9号住居址実測図



| 測定名 | 標号 | 層 | 4 | 化調 | Lの付 | 属性 | 測入者 | | | 備考 |
|--------------|----|------------------|---|----|-----|----|-----|----|----|--------------|
| | | | | | | | RP | R3 | YP | |
| H-10号 | | | | | | | | | | |
| 1 | | 基盤土層 | | ○ | ○ | | | | ○ | 一底層 |
| 2 | | 埋蔵土層 | | ● | ○ | △ | △ | △ | △ | |
| 2' | | 埋蔵土層 $2 < 2'$ | | ○ | ○ | △ | △ | △ | △ | |
| 3 | | 埋蔵土層 | | ○ | ○ | ○ | △ | ○ | △ | |
| 4 | | 埋蔵土層 | | △ | △ | | | | △ | 五代の操作によるものか? |
| 5 | | 埋蔵土層 $2 < 2$ | | ● | ○ | | | | △ | 埋立地 |
| 6 | | 埋蔵土層 $2 < 2$ | | ○ | ○ | N | | | △ | 埋立地 |



第29図 H-10号住居址実測図

(3) 遺物

1. 土器

住居址9軒からは古墳時代の土師器(壺、高壺、壇、小型甕、甕、瓶、壺)と須恵器(壺蓋、甕、甕)が出土した。また、土器はトレーナー及び遺構外からも出土した。

[住居址出土の土器]

H-1号住居址出土の土器(第30図)

I期の土器群。台付甕(1)、壺(2)、甕(3・4)を図示した。

H-2号住居址出土の土器(第31図・第32図)

III期の土器群。口縁が内湾する壺(第31図1~4)と内斜口縁の壺(第31図5~9)、壇(第31図10・11)、高壺(第31図12・13)、甕(第31図14~19、第32図1)、瓶(第32図2)を図示した。17の甕底部には籠目が観察される。

H-3号住居址出土の土器(第32図)

III期の土器群。口縁が内湾する壺(3・4)、甕(5)を図示した。

H-4号住居址出土の土器(第32図)

III期の土器群。甕(6)を図示した。

H-5号住居址出土の土器(第32図・第33図)

III期の土器群。口縁が内湾する壺(第32図7・8)、内斜口縁の壺(第32図9)、須恵器壺蓋(第33図1)、高壺(第33図2~4)、甕(第33図5~12)、壺(第33図13)を図示した。

H-7号住居址出土の土器(第34図)

III期の土器群。口縁が内湾する壺(1)、内斜口縁の壺(2~4)、壇(5)、須恵器甕(6)、甕(7~13)を図示した。

H-8号住居址出土の土器(第35図・第36図)

III期の土器群。口縁が内湾する壺(第35図1~3)、須恵器模倣壺(第35図4)、内斜口縁の壺(第35図5)、高壺(第35図6・7)、ミニチュア土器(第35図8)、壺(第35図9)、甕(第35図10~16、第36図1~3)、瓶(第36図4)を図示した。

H-9号住居址出土の土器(第30図)

I期の土器群。台付甕(5・6)、壇(7)、甕(8・9)を図示した。

H-10号住居址出土の土器(第30図)

II期の土器群。内斜口縁の壺(11)、高壺(12)、小形鉢(13)、甕(14~19)、壺(20)である。

(井上慎也)

[各時期の土器群の特徴]

I 期の土器群

この時期はH-1・9号住居址の土器群が該当し、土師器のみで、小さな平底のくの字状口縁壺、台付壺、壺、高坏等である。平底の壺は胴部中位に最大径をもつ卵形で、器肉が薄い。外側は丁寧なヘラケズリを施し、口縁部内側にヘラナデによる刷毛目を残している。形態や技法的な特徴から長野方面からの影響が推測できる。台付壺は台端部の折り返しが無く、外面をヘラナデ調整する。壺は大形と小形とあり、大形は球形の胴部に小さな平底をもち、頸部が外行して、延びる器肉が薄い。当期は古墳時代前期終末の土器群であるが、S字状口縁の台付壺とは系譜が異なるグループに連なる壺をもつことが注目される。

II 期の土器群

この時期はH-10号住居址の土器群が該当し、土師器のみで、内斜口縁の壺、高坏、壺、壺がある。遺物が少ないため確定はしがたいが小形壺の存在や高坏が大形であることから中期でも中葉に属すると考えられる。

III 期の土器群

この時期はH-2～8号住居址の土器群が該当し、土師器と少量の須恵器が認められている。土師器は壺、高坏、壺、瓶、壺、壺が認められる。須恵器では甕と蓋壺が出土している。壺は内湾の壺、内斜口縁の壺は、体部との変換と傾斜が明瞭で端部をつまみ上げている。内面調整にはヘラミガキが多用される。高坏は「ハ」の字状に開く短い脚で、内斜口縁の壺に短脚を付すものが確認される。壺は胴部に丸みをもつ長胴壺で、口縁形状と法量によって分類が可能である。瓶は「く」の字状の口縁で胴部に丸みをもち大形である。体部はヘラケズリを行っている。壺は有段口縁の大形壺が認められる。また、破片ではあるが龍目の残る壺が認められ、系譜が注目される。須恵器は蓋壺とハソウがあり、少数でしかも破片状態で出土している。壺は口縁が直行して立ち上がり、端部に明瞭な平坦面をつくる。甕は有段の口縁で大きく開き頸部のしまるタイプと思われる。頸部に波状紋を施している。これらの土器群は中期後半に帰属するものと考えられる。

(外山政子・井上慎也加筆)

2. その他の遺物

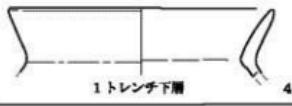
H-9号住居址で滑石製の紡錘車(第30図10)、古墳周辺及び表土から埴輪片が少數出土した。

埴輪(第37図)

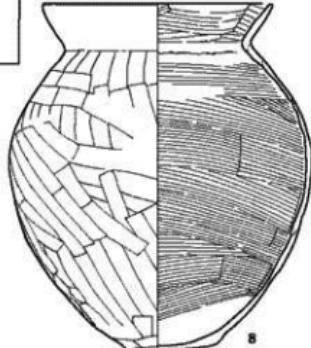
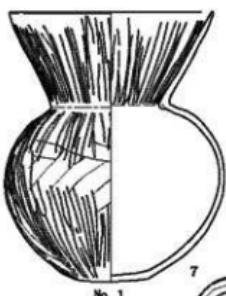
1～4は円筒埴輪である。5～8は形象埴輪と考えられるが、形態は不明である。5は盾縁部分と考えられる。6・7は表面にヘラによる沈線が観察される。6世紀後半の所産と考えられる。

(井上慎也)

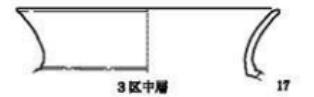
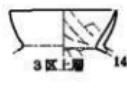
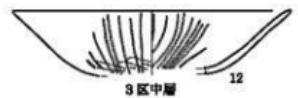
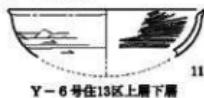
H-1号住



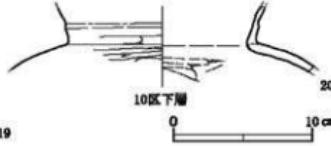
H-9号住



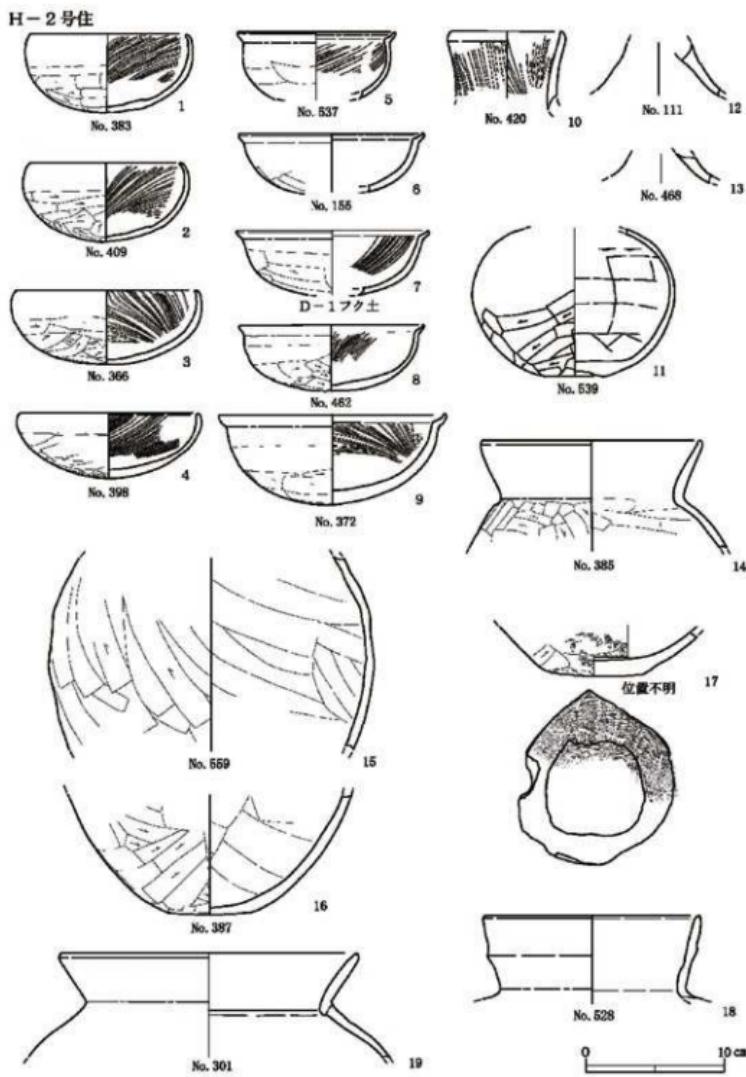
H-10号住



位置不明

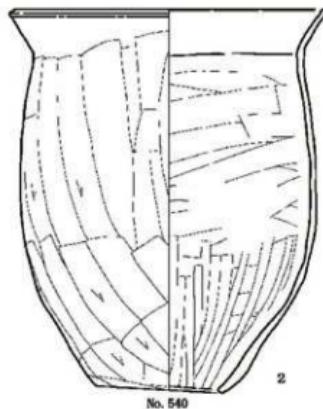
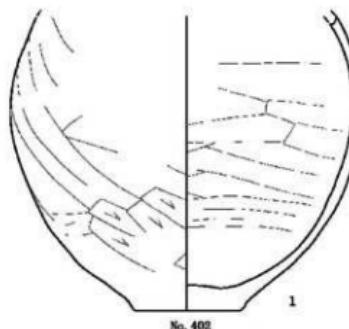


第30図 H-1号・H-9号・H-10号住居址出土の土器実測図



第31図 H - 2 号住居址出土の土器実測図

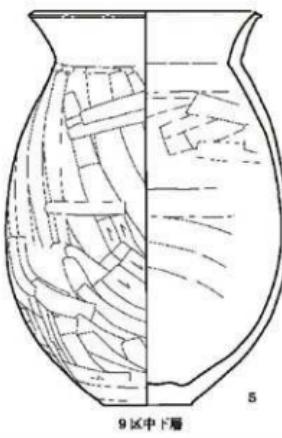
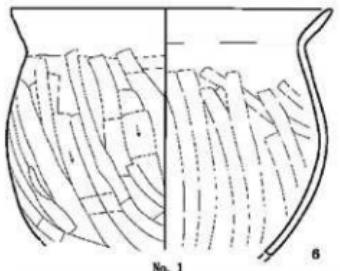
H-2号住



H-3号住



H-4号住

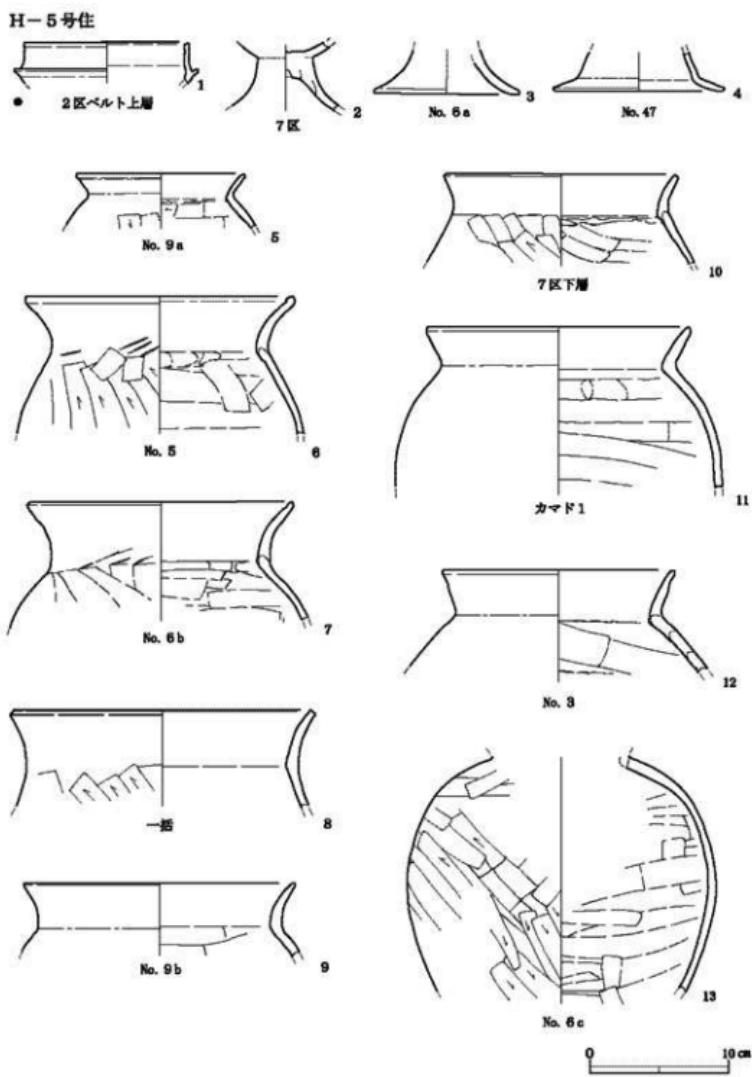


H-5号住



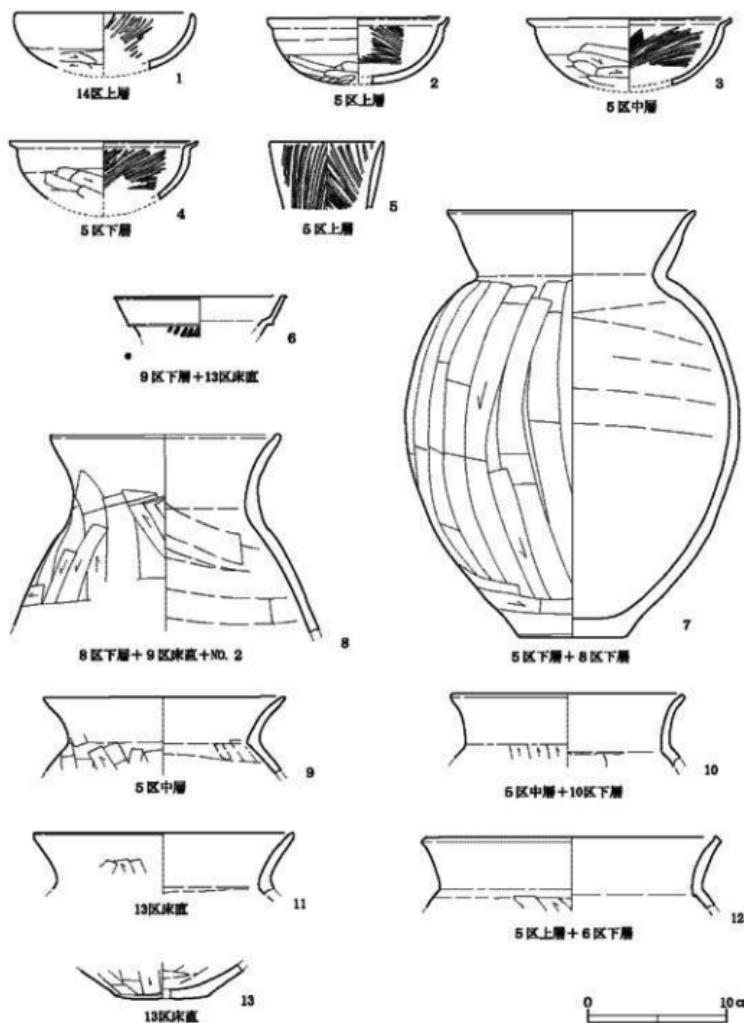
0 10 cm

第32図 H-2号・H-3号・H-4号・H-5号住居址出土の土器実測図



第33図 H-5号住居址出土の土器実測図

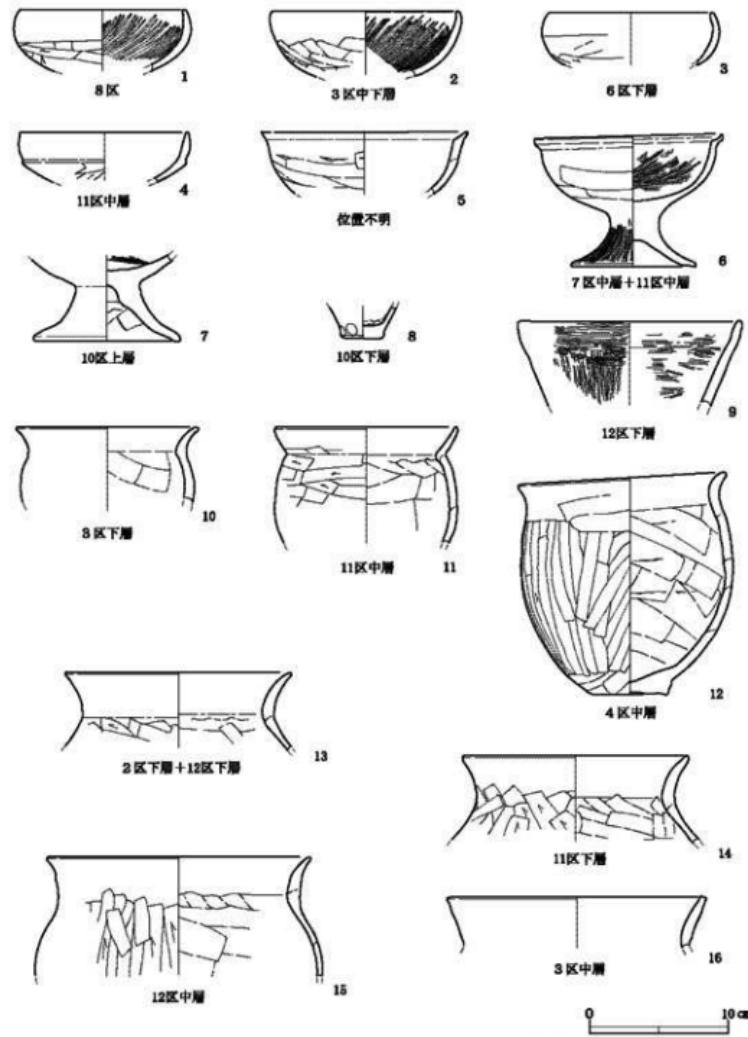
H-7号住



第34図 H-7号住居址出土の土器実測図

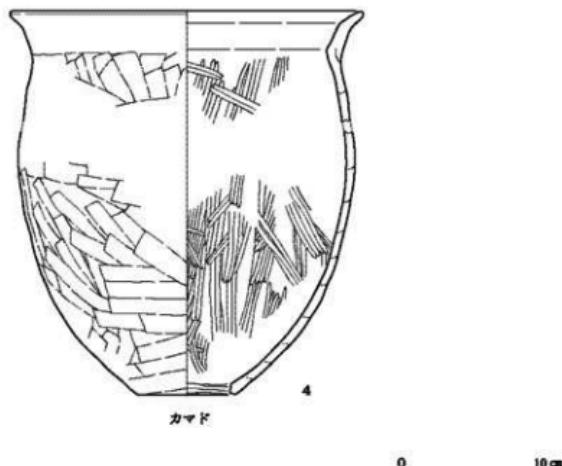
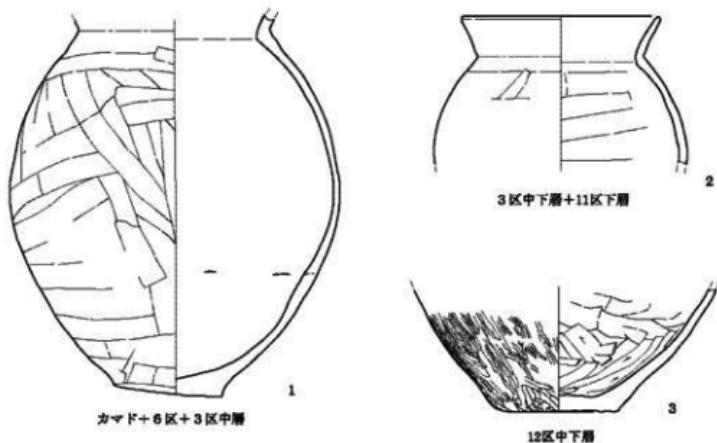
0 10 cm

H-8号住

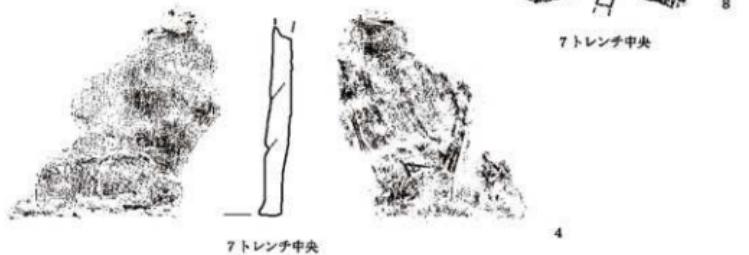
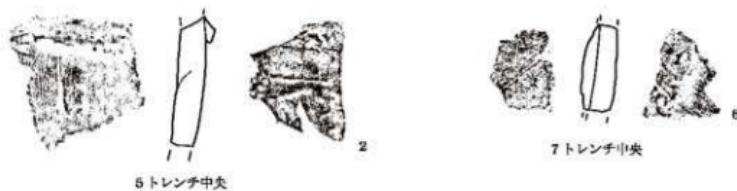


第35図 H-8号住居址出土の土器実測図(1)

H-8号住



第36図 H-8号住居址出土の土器実測図(2)



0 10 cm

第37図 古墳時代の埴輪実測図

5 古代～中世の遺構と遺物

(1)概要

調査区南側で溝、土坑、地下式土坑が検出された。遺構の状態と配置、表土中から、かわらけ(灯明皿)、陶器、内耳土器(土鍋)等の破片が出土している点、平安時代の遺構と遺物が極端に少ない点から、検出された遺構は中世の所産と考えられる。

(2)遺構(第38図・第39図)

溝 Y-5号住居址を壊して南北方向(主軸)に走る。底面が平底の鍋底形である。

土坑 8基検出された。形態は隅丸長方形が多く、主軸の方向が南北と東西に分けられる。覆土の状況が不明なため、時期は判然としないが、平安時代以降の所産と考えられる。

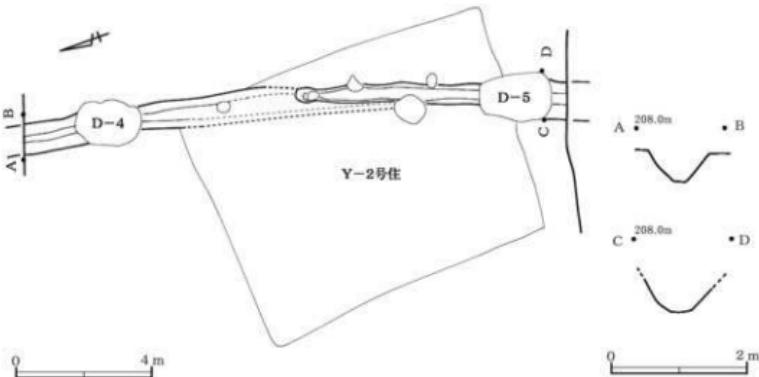
地下式土坑 H-2号住居址の南側で検出された。平面円形+方形で断面鍋底形で深く、覆土中から内耳土器(土鍋)の破片が出土した。

(3)遺物(第39図)

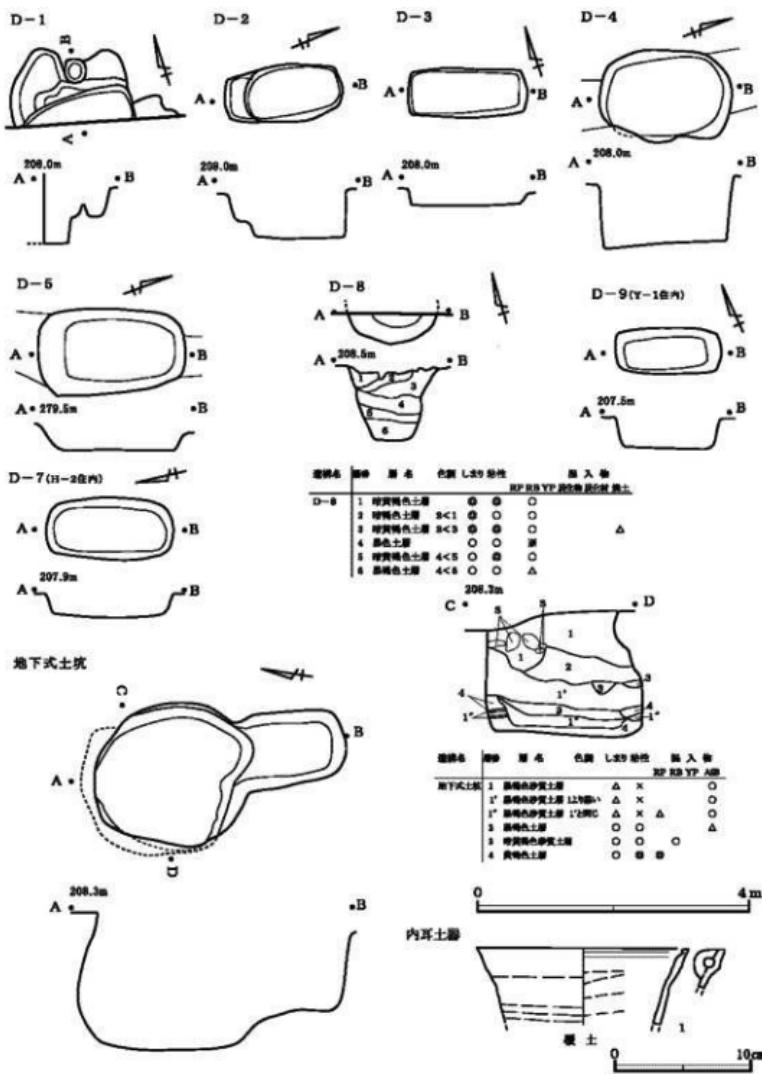
1は地下式土坑覆土から出土した内耳土器(土鍋)である。器形は胴部から口縁部が「く」の字状に外反する「上野・武藏型」である。口縁内側に耳をもつ。15世紀後半の所産と考えられる。

(井上慎也)

M-1



第38図 M-1号溝実測図



第39図 土坑・地下式土坑及び出土土器実測図

VI 成果と問題点

ここでは、各時代について、市史の所見をもとに遺跡の性格と特徴についてまとめる。

1 縄文時代について

草創期では「小瀬ヶ沢型」の有舌尖頭器と石鏃が出土した。遺構及び土器は検出されなかったが、本遺跡周辺では、篠瀬二子塚古墳の埴丘覆土でも有舌尖頭器が発見されていることから、今後、この地域でも集落が発見される可能性が考えられる。

縄文時代の遺構は検出されなかったが、多数の土器と石器が出土した。特に前期中葉から後葉の遺物が主体である。遺物の時期から、遺跡は後期前半まで存続する。本遺跡周辺では櫻木畠遺跡(前期後葉と中期後半の集落跡)、清水I・III・V遺跡(前期中葉の集落跡及び中期後半の遺構)が存在する。また、分布調査によって、縄文時代の遺物散布地も多数確認されていることから、本遺跡一帯にも前期及び中期を主体とする集落が点在している可能性が考えられる。

(井上慎也)

2 弥生時代の土器について

市内における弥生IV期の栗林系土器の分布は、本遺跡のある原市地区が濃厚である。この地区的調査遺跡としては、本遺跡と高橋遺跡がある。高橋遺跡の主体は、弥生V期(樽式期)である。その西側で一段高い位置に広がる杉名薬師遺跡では、弥生I期からV期までの資料増大がみられ、V期を主体とする。両遺跡は実質的には一つの集落であり、杉名薬師遺跡において開始した集落が、V期において東側低地部に拡大したものが妥当であろう。弥生I期の資料の存在は、初期農耕集団が小規模ながらもいち早くこの地域に進出したことを示す点で重要である。また、IV期資料の充実は、弥生時代の集団の開発の指向が、それまで中核だった中野谷地区から、原市地区など碓氷川北岸に移行したことを示している。碓氷川北岸のIV期の充実が、在来集団の拡大なのか、あるいは中部高地からの移入集団なのかも含めて、今後検討が必要である。

調査区内で検出されたV期(後期)の土器は、V3期(樽式3期)を中心としている。基本的には、椎名山東南麓(井野川流域)と近い内容を有するが、壺には櫛描T地文が多く採用されており、椎名山東南麓地域の様式との異なりがみられる。

本遺跡は九十九川と八咫川の合流地点に占地し、高所の杉名薬師遺跡から低地の高橋遺跡に集落拡大したものである。九十九川の形成した氾濫原及び八咫川の形成した低地帯を主な水田可耕地として掌握、経営した集団の居住地であろう。

(若狭 澄)

3 弥生時代の石器について

本遺跡では弥生時代の石器群も確認できた。ほとんどが弥生時代中期の石器群と考えられるが、住居址出土の石器群には中期の石器群に後期も混在していると思われる。ここでは主な器種と石器群についてまとめたい。弥生石器の一器種である石鋤は2点出土した。石鋤は縄文晩期から前期に出現し、一部の地域で後期まで存続する器種である。市内では前期終末(Ⅰ期)から中期中葉(Ⅲ期)までの石鋤が、注連引原遺跡群、中野谷原遺跡等、中野谷地区で多数出土している。中期後半(Ⅳ期)とされる石鋤は、植松地尻遺跡、大王寺地区遺跡群(松井田工業団地遺跡、西裏遺跡等)で出土している。また、後期とされる石鋤は、高橋遺跡、下原・賽神遺跡で出土している。市内の時期別、地域別分布をみると各時期をとおして組成し、後期まで存続がみられる傾向を考えられる。また、地域的にも市内全域で弥生の遺跡が存在する場所(遺跡群)で出土している。しかし、時期的な形態差は少なく、直接交互剥離調整によって整形する技法の特徴があるものの、形態には時期的変化が乏しく、撥状あるいはうちわ形となる形態は後期まで続く。ただし、石鋤は中期に盛行していることと、石器を使用する時期に主体的に組成する点からみれば、杉名薬師遺跡の石鋤は中期とするのが妥当であるが、後期の可能性も否めない。

また、特筆するべきものとして、打製石包丁と考えられるスクレイバーが住居址から出土した。この石器は、横長剥片を素材とし、直接打撃によって刃部あるいは器体を整形し、側縁部に抉りをもち、その周辺が磨滅している。一般的に石包丁は磨製が主体であるが、本県では資料数は少なく、実用には横長剥片素材をそのまま利用あるいは若干の調整を施す打製のスクレイバーを用いたとするが、本遺跡例の石器は類例が少ない。本遺跡の打製石包丁は、実用品ではなく、恐らく威信財の可能性も考えられる。磨製石包丁は、市内では後期後半(Ⅴ-Ⅲ期)の集落遺跡である荒神平遺跡で2点出土しているが、弥生後期の遺跡ではほとんど出土しない。

こうした主要器種の外に、住居址からは多数の剥片、また、凹石、磨石、台石、砥石等の加工工具類も出土し、石器群としてのまとまりがみられる。剥片類は縄文石器群とは石材が異なり、安山岩を主体としている。同一母岩もあることから石器製作が行われていたものと推定される。しかし、製作された石器はほとんどないことから、製作された石器の種類はスクレイバーあるいは石鋤などに限定されたものと思われる。部分研磨石器(土器磨き石)は、住居址で数点出土しており、黒色頁岩製で円盤を素材としている。同時期の遺跡で、諏訪ノ木遺跡でも同様な石器が出土している。本遺跡の弥生集落の集團では、石器を使用する時間が後期まで存続していたと考えられる。

(井上慎也)

4 古墳時代の集落について

本遺跡は古墳時代前期終末の時期に集落を形成し始めるが大きく展開しない。西側の台地中央部では古墳時代前期の住居址は検出できていない。また、東に位置する高橋遺跡においても当期の遺構は検出されていない。したがって古墳時代前期は数棟の小規模な集落であったと考えられる。一時の断絶を挟んで集落が再開されるのは古墳時代中期後葉から後期初頭にかけてである。この時期は安中市域の他地域でもかなりの集落展開がみられる。当期における集落範囲は大きく拡大している。西の嶺・下原遺跡の調査区東端に住居址が1軒確認できており、また、東の高橋遺跡でもほぼ同時期の集落が認められている。少なくとも本遺跡を中心に台地東端部全域に拡大していたと考えられるだろう。原市・安中台地に兼瀬二子塚古墳を出現させ、九十九川流域に展開するT字形の横穴式石室をもつ古墳を出現させる前提となった集落の一つであろう。

遺物の特徴からは碓氷川南岸地域とは違った印象である。細かい検討を経ねばならないが、内斜口縁の杯に短脚を付す高杯は碓氷川南岸の諏訪ノ木遺跡などでは少ないようだ。しかし、碓氷川下流域の高崎市八幡台地遺跡群や乗附丘陵の遺跡群では多くみられる器種である。土器の形態、胎土、技法からもより下流域の遺跡群との関連性がうかがえる。このことは碓氷川を挟んだ南岸地域と北に展開する遺跡群が属した集団系列を検討する良好な資料となろう。

古墳時代後期初頭の集落は継続せず、やがて古墳時代後期後半の古墳群が成立し、嶺・下原遺跡や桜木畠遺跡、八咫川右岸の清水遺跡の集落展開の間には空白が生じている。

I期における壺やⅢ期の籠目土器は在来の系譜とは異なっており、本遺跡の性格を考える上で重要な資料であろう。

(外山政子)

5 古墳時代の住居址について

本遺跡で検出された住居址の中には、壁面に多数の小ピット(横穴)をもつもののが存在した。横穴の形態はいずれも先細りで、先を細く削った棒状のものを突き刺した形跡がある。こうした住居址は、市内では桜木畠遺跡で2軒(奈良時代)、西殿遺跡で2軒(平安時代)確認されている。桜木畠遺跡の報告では、この横穴について考察し、棚状等の施設の可能性も考えられるが、民族例を参考にして「住居の壁の崩落を防ぐためのもの」とし、壁に板等を押しつけるために先の尖った杭を打ち付け止めた跡と推定し、現地点では市内ののみで確認されていることから地域性として捉えられるかを指摘している(千田1990)。その後、こうした住居址の資料は増加がみられないため、実態について結論を出すことはできていない。しかし、こうした住居址が少ない原因は、調査精度にも大いに関係することから、今後の調査においても壁面には注意する必要がある。

また、時期が異なっているが、住居址のほとんどが焼失している点は特異である。高橋遺跡に

おいても焼失住居は確認されており、その関連性が注目される。特にH-9号住居址(Ⅰ期)では、放射状に重木が組まれ、住居中心には方形に組まれた梁が確認できる。また、木材には角材もあり、太さ、長さ等に規格性が認められ、加工されていることも判明した。住居址の炭化材には主柱がないことから、柱を抜き取るなどして解体後に焼失した可能性が考えられる。焼失の理由として、建て替えによる住居の処分と推定できるが、その背景には、他集団との緊張関係といったこと等も視野に入れ今後検討しなければならない。

(井上慎也)

6 古代～中世について

集落は確認されなかつたが、明確に時期が限定できる遺構として地下式土坑が挙げられる。遺跡の南側にある清水Ⅱ遺跡では中世の窯跡、工房跡が確認されており、榎下城、その外郭でも遺構が発見されていることから、本遺跡周辺にもこれらの遺構群と関連する中世の遺構が存在する可能性が高い地域である。

(井上慎也)

<主要参考文献>

ここでは、紙面の都合上、主なものに限った。なお、市内遺跡の概要及び引用については、各遺跡の報告書及び『安中市史』第2巻、第4巻を参考としている。

外山和夫・津金沢吉茂・井上 太 1978 『群馬県における弥生時代資料の集成Ⅰ』群馬県立博物館

千田茂雄・大工原豊 1990 『榎木細遺跡』安中市教育委員会

若狭 徹 1996 『群馬県地域』『YAY!』弥生土器を語る会

大工原豊・外山政子・若狭 徹・千田茂雄・清水 豊 他 2001 『安中市史』第4巻原始古代中世資料編
安中市

大工原豊 2001 『杉名薬師遺跡(縄文)』『安中市史』第4巻原始古代中世資料編 安中市

外山政子 2001 『杉名薬師遺跡(古墳)』『安中市史』第4巻原始古代中世資料編 安中市

若狭 徹 2001 『杉名薬師遺跡(弥生中期・後期)』第4巻原始古代中世資料編 安中市

大工原豊・若狭 徹・右鳥和夫 他 2003 『安中市史』第2巻通史編 安中市

千田茂雄 2003 『古屋地区遺跡群(高橋遺跡)』『安中市史』第2巻通史編 安中市

千田茂雄 他 2004 『古屋地区遺跡群(高橋遺跡)』安中市教育委員会

写 真 図 版

図版 1



杉名薬師遺跡遠景(手前が高橋遺跡、中央台地が本遺跡)



杉名薬師遺跡 全景

図版2



Y-1号住居址



Y-2号住居址



Y-2号住居址 遺物出土状況



Y-3号住居址



Y-3号住居址 遺物出土状況



Y-4号住居址



Y-5号住居址



Y-6号住居址

図版 3



Y - 7 号住居址



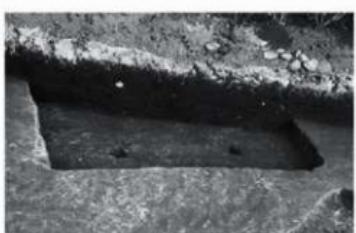
H - 1 号住居址



H - 2 号住居址



H - 2 号住居址 遺物出土状況



H - 3 号住居址



H - 4 号住居址



H - 5 号住居址



H - 7 号住居址

図版 4



H-7号住居址 遺物出土状況



H-8号住居址



H-8号住居址 遺物出土状況



H-9号住居址



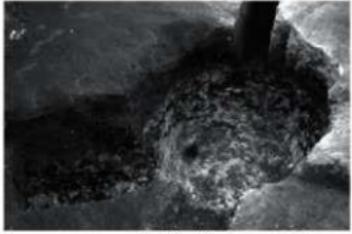
H-9号住居址 炭化材検出状況



H-9号住居址 植物繊維出土状況



H-10号住居址



地下式土坑

図版 5



弥生中期前半(1~20)

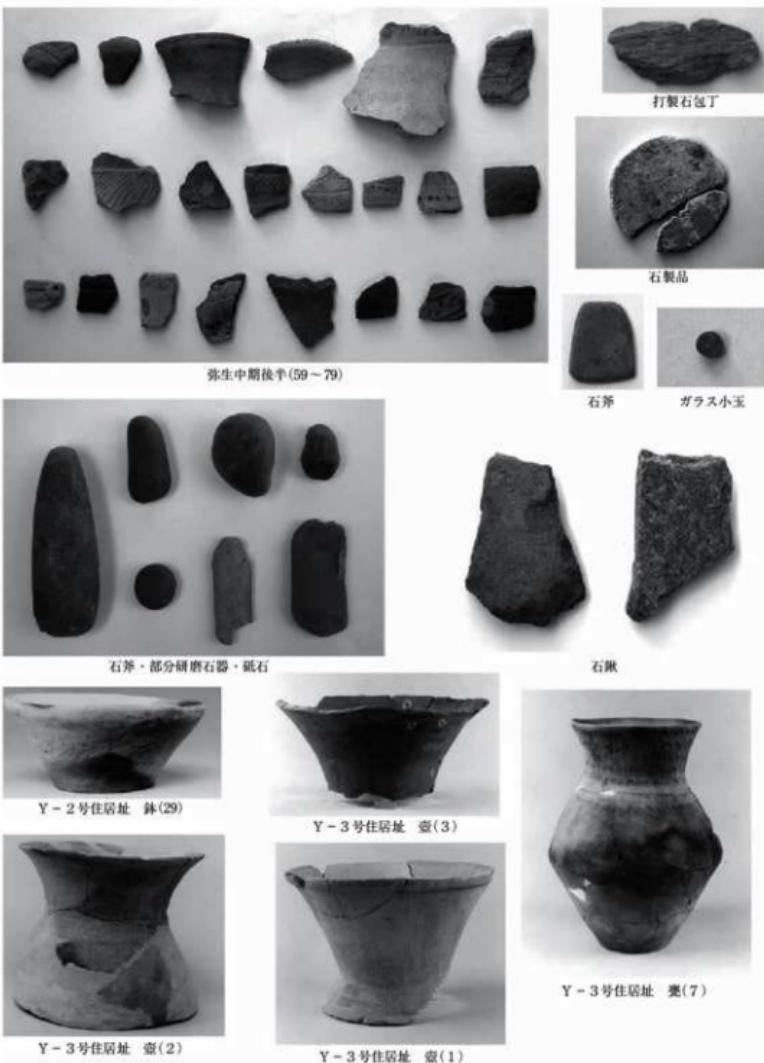


弥生中期後半(21~47)



弥生中期 鉢(48~58)

図版6



図版 7



Y-5号住居址 壶(1)



Y-5号住居址 壶(3)



Y-5号住居址 壶(4)



Y-5号住居址
土匙(17)



Y-5号住居址 壶(6)



Y-5号住居址 壶(2)



H-2号住居址 壺(28)



H-2号住居址 壺(1)



H-2号住居址 壺(2)



H-2号住居址 壺(2)



H-2号住居址 壺(9)



H-2号住居址 壺(14)



H-2号住居址 壺(8)



H-2号住居址 壺(11)



H-2号住居址 壺底部(17)

图版 8



H-3号住居址 壶(5)



H-4号住居址 壶(6)



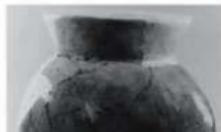
H-7号住居址 壶(8)



H-8号住居址 高环(6)



H-5号住居址 环(9)



H-7号住居址 壶(7)



H-8号住居址 壶(12)



H-8号住居址 壶(2)



H-9号住居址 台付壶(6)



H-9号住居址 小型壶(3)



H-9号住居址 壶(7)



H-9号住居址 缝绵革(10)



埴輪

発掘調査報告書 抄録

| | |
|---------|--------------------------------------|
| ふりがな | すぎなやくしいせき |
| 書名 | 杉名薬師遺跡 |
| 副書名 | 分譲住宅造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 |
| 卷次 | |
| シリーズ番号 | |
| 編著者名 | 井上慎也 大工原豊 若狭徹 外山政子 |
| 編集機関 | 安中市埋蔵文化財発掘調査団 |
| 編集機関所在地 | 379-0192 群馬県安中市安中一丁目23-13(安中市教育委員会内) |
| 発行年 | 西暦2006年(平成18年)2月28日 |

| 所取遺跡名 | 所在地 | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|--------|----------------|--------|------|-----------|------------|---------------------------|---------------------|--------|
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| 杉名薬師遺跡 | 安中市原市 字杉名薬師 | 102113 | C-4 | 36°19'25" | 138°51'43" | 19880919 ～ 19881116 | 1.280m ² | 分譲住宅造成 |

| 所取遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|--------|-----------|---------------------|------|---|---|
| 杉名薬師遺跡 | 包含層 集落 | 縄文草創期・前期・中期・後期・弥生中期 | 住居址7 | 土器・石器(有舌尖頭器・石鐵等) 土器(壺、鉢、甕)・石器(石鐵等) 土器(壺、鉢、甕、高环等)・紡錘車・石器(部分研磨石器、砥石等)、ガラス小玉 土器器(壺、高环、甕、瓶等)・須恵器(环蓋、甕、甕) | 市内でも少ない弥生IV期の良好な資料。 弥生V期は在地の構式系を含め、吉ヶ谷系、東海系等の他地域の土器群が混在する。住居址は全て大型住居址。 |
| | | 弥生後期 | 住居址9 | 埴輪(円筒・形象) 内耳土器、灯明皿、陶器 | 屋根の構造を残した良好な住居址。 |
| | 古墳中期～後期 | 地下式土坑1溝1・土坑8 | | | 台地下に存在する高橋遺跡とは弥生時代及び古墳時代において同一集落。 |
| | 古代～中世 | | | | |

杉名薬師遺跡

分譲住宅造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

発行日 平成18年2月28日

編集・発行 安中市埋蔵文化財発掘調査団

群馬県安中市安中一丁目23番13号

(安中市教育委員会内)

印 刷 サカエ印刷

群馬県安中市郷原2767-1